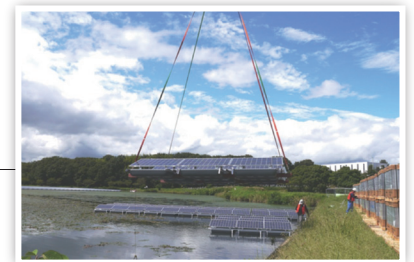
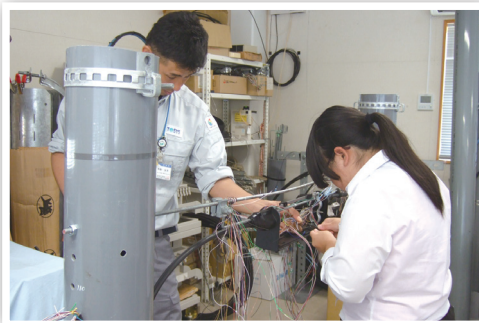


COMSYS Group CSR REPORT 2016

コムシスグループ CSR レポート



編集方針

「COMSYS Group CSR REPORT 2016」は環境に配慮し、Webサイトを中心にPDFを活用した開示方法を採用しています。

皆さまのご理解のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

「COMSYS Group CSR REPORT」は、コムシスグループのCSR(企業の社会的責任)に関する考え方と活動状況を、ステークホルダーの皆さまに分かりやすく報告することを目的として発行しています。加えてCSRレポート2016では、「本業を通じた社会貢献」「コムシスグループの価値創造プロセス」をテーマとした特集を設けるなど、コムシスグループの企業価値全般をご理解いただくための情報も充実させています。

グループ各社のCSR活動については、引き続きISO26000の「7つの中核主題」を参考にしていますが、報告面では、それぞれのステークホルダーの皆さまが理解しやすいよう、今回よりGRIガイドライン第4版を参考に「コーポレート・ガバナンス」「安心・安全の追求」「品質向上と環境への配慮」「人財」「事業を通じた社会貢献」の5つのカテゴリに再分類し、報告しています。

■報告対象分野

事業活動の経済・社会・環境の3分野についての取り組みを報告しています。

■報告対象範囲

コムシスホールディングス株式会社および主要事業会社

■報告対象期間

2015年度(2015年4月～2016年3月)の取り組みについて報告していますが、2016年4月以降の活動や情報についても一部報告しています。

■参考にしたガイドライン

GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン第4版」
環境省「環境報告ガイドライン2007年版」
ISO26000(社会的責任に関する手引き)

■次回発行予定

2017年9月

URL▶<http://www.comsys-hd.co.jp/>

コムシスホールディングス会社概要

社 名	コムシスホールディングス株式会社	連結従業員数	9,994人(2016年3月末日現在)
英 文 社 名	COMSYS Holdings Corporation	単独従業員数	49人(2016年3月末日現在)
設 立 日	2003年9月29日	主要事業会社	● 日本コムシス株式会社(以下日本コムシス)
所 在 地	東京都品川区東五反田2-17-1 TEL 03-3448-7100(代表)	(詳細はp.1)	● サンワコムシスエンジニアリング株式会社(以下サンコム)
資 本 金	100億円		● 株式会社TOSYS(以下TOSYS)
連 結 売 上 高	3,206億円(2016年3月期)		● 株式会社つうけん(以下つうけん)
連結経常利益	242億円(2016年3月期)		● コムシス情報システム株式会社(以下COMJO)
			● コムシスシェアードサービス株式会社(以下CSS)

CONTENTS

コムシスグループの組織体制	01
コムシスグループの事業内容	02
トップコミットメント	03
財務ハイライト	06

特集1 事業多様化に対するグループ各社の取り組み	07
--------------------------	----

特集2 環境・エネルギーに関する取り組みを拡大	10
-------------------------	----

特集3 コムシスグループの価値創造プロセス	14
-----------------------	----

CSR 重要課題「4つの道しるべ」に関する 2015年度の取り組み状況について	16
--	----

コーポレート・ガバナンス

／経営の透明性・健全性向上、効率の良い組織運営を進める	22
-----------------------------	----

安心・安全の追求

／安定した事業活動、安心・安全な労働環境を目指して	27
---------------------------	----

品質向上と環境への配慮

／お客様視点を踏まえたサービス品質の向上、地球環境課題の解決に向けて	34
------------------------------------	----

人 財

／働きやすさへの配慮、モチベーションの向上、パフォーマンスの発揮	42
----------------------------------	----

事業を通じた社会貢献

／事業を通じた社会貢献、コミュニティへの積極的な参画を図る	51
-------------------------------	----

●参考資料

コムシスグループ CSR のあゆみ	61
-------------------	----

コムシスグループの組織体制 (2016年9月1日現在)

コムシスホールディングス株式会社



日本コムシス株式会社

日本コムシス

設立日 1951年12月20日
所在地 東京都品川区東五反田2-17-1
TEL 03-3448-7030
代表者 代表取締役社長 加賀谷 卓
資本金 311億4,051万円
従業員数 連結5,044名
単独2,902名
(2016年3月末現在)
売上高 連結2,101億円
単独1,867億円
(2016年3月期)

■日本コムシスグループ

コムシスモバイル(株)
コムシスエンジニアリング(株)
ウィンテック(株)
コムシス九州エンジニアリング(株)
(株)フォステクノ四国
通信電設(株)
日本海通信建設(株)
コムシスプロミメント(株)
コムシス北海道エンジニアリング(株)
(株)日本エコシステム
(株)日本ソーラーパワー
コムシスクリエイト(株)
東京舗装工業(株)
コムシスネット(株)
コムシス東北テクノ(株)
コムシス通産(株)
(株)大栄製作所



サンワコムシス エンジニアリング株式会社

サンコム

設立日 1947年9月12日
所在地 東京都杉並区高円寺南2-12-3
TEL 03-6365-3111
代表者 代表取締役社長 坂本 繁実
資本金 36億2,471万円
従業員数 連結1,456名
単独711名
(2016年3月末現在)
売上高 連結423億円
単独350億円
(2016年3月期)

■サンコムグループ

三和電子(株)
(株)エス・イー・シー・ハイテック
サンコムテクノロジ(株)



株式会社TOSYS

TOSYS

設立日 1960年1月23日
所在地 長野県長野市若穂綿内字東山1108-5
TEL 026-213-8920
代表者 代表取締役社長 小川 亮夫
資本金 4億5,000万円
従業員数 連結1,069名
単独640名
(2016年3月末現在)
売上高 連結283億円
単独205億円
(2016年3月期)

■TOSYSグループ

(株)アルスター
(株)トーシス新潟
川中島建設(株)
チューリップライフ(株)



株式会社つうけん

つうけん

設立日 1951年4月2日
所在地 北海道札幌市中央区北4条西15-1-23
TEL 011-644-1161
代表者 代表取締役社長 大村 佳久
資本金 14億3,293万円
従業員数 連結1,714名
単独846名
(2016年3月末現在)
売上高 連結440億円
単独301億円
(2016年3月期)

■つうけんグループ

(株)つうけんアドバンスシステムズ
(株)つうけんアクティブ
(株)つうけんアクト
つうけんビジネス(株)
(株)セントラルビルサービス
北海道電電輸送(株)



コムシス情報システム株式会社

COMJO

設立日 2009年4月1日
所在地 東京都港区高輪3-23-14
TEL 03-3448-8100
代表者 代表取締役社長 青山 明彦
資本金 4億5,000万円
従業員数 連結518名
単独370名
(2016年3月末現在)
売上高 連結89億円
単独70億円
(2016年3月期)

■COMJOグループ

コムシステクノ(株)



コムシスシェアード サービス株式会社

CSS

設立日 2003年10月1日
所在地 東京都品川区東五反田2-17-1
TEL 03-3448-7141
代表者 代表取締役社長 中嶋 龍史
資本金 7,500万円
従業員数 144名
(2016年3月末現在)
売上高 32億円
(2016年3月期)

グループ企業の業務について

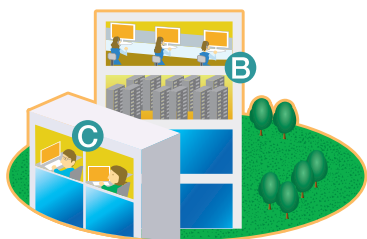
通信キャリア様のほか、官公庁および一般企業各社を主たるお客様としていますが、通信キャリア様に関しては統括事業会社のうちの4社がお客様や営業地域によってセグメントされており、日本コムシスはNTT様およびNTTドコモ様を、サンコムはKDDI様やソフトバンク様をはじめとするNCC (New Common Carrier) を、TOSYSは信越地域のお客様、つうけんは北海道地域のお客様を対象として、情報通信インフラの設計から工事・保守・運用までのサービスを提供しています。COMJOはソフトウェア開発をはじめとする情報システムの開発を主な業務として、経理・財務、総務人事業務関連のサービスを提供するCSSとともに、グループ全体をバックアップしています。

コムシスグループの事業内容 ～ “つながりを支える” コムシスグループ



ICTソリューション

さまざまな技術やサービスを駆使して、お客様のご要望に合わせて、多岐にわたるソリューションを提供します。



コモンプラットフォーム ⑧

通信キャリアのネットワーク構築で培った高度なインフラ構築技術を用い、お客様のご要望に合わせたプラットフォームを構築します。

ICTプラットフォーム ⑩

増加するデータ資産を高速で送受信するために、特別な圧縮技術やWAN高速化装置などの最新技術により、物理的な制約にとらわれない高速ネットワークを提供します。さまざまなセキュリティ技術を使い、光ファイバやLANケーブルの中を流れる大切な情報を安全・正確に伝達する環境を構築します。

コミュニケーションソリューション

次世代コラボレーションプラットフォーム「comsip」をベースとした、テレフォニーソリューションやコンタクトセンターソリューションにより、理想的なコミュニケーションプラットフォームを構築します。

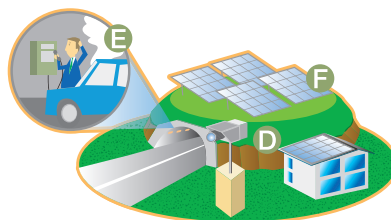
ICTマネジメントサービス

フルアウトソースサービスの提供から、フルタイムの遠隔監視、全国駆け付け保守対応などのさまざまなICTマネジメントサービスにより、お客様の煩雑な運用業務を軽減するとともに、いつでも快適なシステム環境をご利用いただけるようサポートしています。

社会システム

地震や台風、大雨などの自然災害を監視・予測するシステムや自然エネルギーを活用した発電システムを提供します。

※右記工程は、監視システムの場合。



設計

設置エリアの指定を受け、監視カメラなど機器の設置計画を立案します。有線か無線かの判断、使用機器の選定や手配などを行います。

工事

工事計画に沿って、監視カメラの設置、ケーブル接続など、システム導入のための工事を行います。

保守

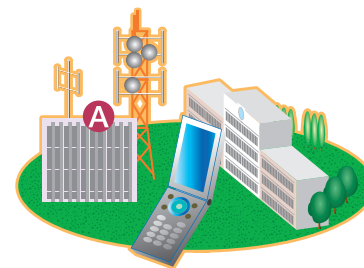
システムや設置機器のメンテナンスを行い、管理者であるお客様が快適にシステムをご利用いただけるようサポートします。

例えば

- ・監視カメラ ⑪
(火山、地震、道路など)
- ・トンネル通信設備、防災設備 ⑫
- ・太陽光発電設備 ⑬
- ・共同溝設備 ⑭
- ・電気設備 ⑮

無線ネットワーク

快適な携帯電話ネットワークを構築するために基地局の設置工事を行います。設置エリアの調査から工事後の保守まで手がけま。



折衝・コンサル

基地局を必要とするエリアの事前調査を行います。結果をもとに設置場所を選定し、設置候補地に関する折衝も行います。

設計・施工

工事計画を立案し、施工を行います。設置場所の条件・環境によっては、基地局を設置するための鉄塔を建設する場合もあります。

保守

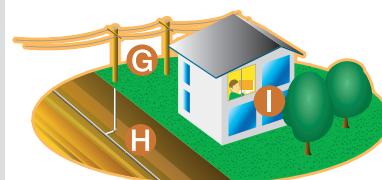
設置工事完了後は、運営中に故障や異常が生じた場合の対応も行っていきます。また、既存エリアの品質調査を実施する場合もあります。

例えば

- ・携帯電話基地局設置 ⑯
- ・携帯電話品質調査 ⑰
- ・無線LAN ⑱

有線ネットワーク

通信キャリアの通信設備構築やメンテナンス、各ご家庭への光ファイバの敷設・接続業務などを行います。地下ケーブル専用のトンネル工事なども実施します。



設計

ケーブルを地下から引くか、電柱から引くかなど、接続するルートを選定します。決定後は、ルート開通に必要な工事計画を立てます。

工事

工事計画に沿って接続工事を行います。お客様のニーズに合わせて、納品後のメンテナンスも請け負っています。

回線増設

将来のさらなるネットワーク拡大に伴うニーズ増加に備え、通信キャリアの需要予測に基づいて回線や交換機の増設工事を行っています。

例えば

- ・通信キャリア設備 ⑲
- ・固定電話回線 ⑳
- ・地下ケーブル・電柱
- ・光回線 (FTTH) ・CATV ㉑

「企業価値の向上」に向け、 「本業を通じた社会貢献」にまい進します。

コムシスグループは、通信建設業界のリーディングカンパニーとして、グループならではの活動を推進することにより、さまざまなステークホルダーの期待に応え、社会に貢献できる企業として成長を目指します。

コムシスホールディングス株式会社
代表取締役社長

高島 元



コムシスグループのCSRの考え方

コムシスグループを取り巻く情報通信分野では、光アクセスのサービス卸（光コラボレーションモデル）による新たな需要の拡大およびLTEなどの高速無線ブロードバンドサービスを活用したスマートフォン・タブレット端末の多様化・高機能化に向けた技術革新などにより、サービス内容やマーケット状況が大きく変化しています。また、公共・民間分野においては、ICTを活用した医療、防災、電子行政などの分野でモノ・サービスをつなげる新たなイノベーション（IoT）や国土強靱化施策、環境・エネルギー事業および東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた社会インフラ投資の拡大が期待されています。

こうした事業環境の中、コムシスグループでは安心・安全・便利なネットワーク社会の実現に向けた取り組みを強化してきました。私たちのCSR活動の基本は「本業を通じた社会貢献」を行うことです。創業以来培ってきた高度な技術力をもって事業を拡大させ、しっかりと利益を上げ、それをステークホルダーの皆さまに還元して社会の持続的発展に貢献することは、私たちコムシスグループにとって、極めて重要であると考えています。

また、ダイバーシティマネジメントについては「女性活躍推進法」の施行もあり、グループ会社各社にてそれぞれ目標を設定し、取り組み内容と実施時期を定めました。世の中の変化に対応し、常に新しいものを生み出すためにも、ダイバーシティを推進し、積極的に多様な人材・考え方を受け入れ、多様な価値観を評価しています。

コムシスグループの価値創造プロセス

コムシスグループにとってのCSR活動は、価値創造を支える重要な要素であると考えています。その核となるのは言うまでもなく「人財」です。その人財を駆使し、企業統治（コーポレート・ガバナンス）という基本的な枠組みの中で「安心・安全の追求」「品質向上と環境への配慮」「事業を通じた社会貢献」という重要課題に取り組んでいます。

「トップラインの拡大」と「構造改革の進化」を柱とした「COMSYS WAY[®]」

は、コムシスグループの中長期的な成長に向けた原動力と言えます。

トップラインの拡大

2015年度もトップラインの拡大に向け、さまざまなチャレンジを行いました。「新たな事業領域へのチャレンジ」としては、日本コムシスとTOSYSおよびつうけんの3社が、NTT東日本・西日本様が提供する光回線のリセール事業に取り組みました。またサンコムでは、以前から展開している海外事業をさらに拡大させました。「M&A・アライアンスの強化」では、TOSYSによる日本アフター工業の完全子会社化や、つうけんによる東亜建材工業、北海道電電輸送の完全子会社化、日本コムシスによる東京舗装工業の完全子会社化を実施しました。（詳細は特集1「事業多様化に対するグループ各社の取り組み」（p.7）をご覧ください）

「太陽光事業を含めたグリーンイノベーション事業への積極的参画および拡大」では、コムシスグループ初となる水上フロート式太陽光発電所の開設を含め、6カ所の太陽光発電所を稼働させました。また日本コムシスの世田谷TS（テクノステーション）では、太陽光発電による電気自動車（EV）を導入しました。サンコムでは、個人住宅向けの蓄電池設置工事を請け負い、全国で約1,000件の住宅向けに蓄電池を設置しました。さらに、日本コムシスの子会社である日本エコシステムでは、電力小売全面自由化を背景に、太陽光発電を主軸とした電力小売事業「じぶん電力」をスタートさせました。（詳細は特集2「環境・エネルギーに関する取り組みを拡大」（p.10）をご覧ください）

構造改革の進化

2015年度は、成長事業分野への要員流動、社員のマルチスキル化によるリソースの最大活用、グループ会社の一体的な営業・施工体制の強化などに努めました。

今後は、創業より培われた企業文化や強みである「チャレンジ精神」「協力会社との強固なパートナーシップ」「強固な経営基盤・財務基盤」「技術とノウハウ」「M&A・アライアンスの強化」を存分に発揮し、ステークホルダーの皆さまと良好な関係を築きながら、中長期ビジョンの実現に向けてまい進する所存です。

なお、価値創造プロセスの全体像については、特集3「コムシスグループの価値創造プロセス」(p.14)をご覧ください。

ベンチマークとしての「4つの道しるべ」

中長期ビジョンや経営理念の実現に向けたベンチマークとして、コムシスグループでは2013年度に「4つの道しるべ」を掲げ、取り組んでいます。2015年度も、前期に引き続き具体的数値目標に向けてCSR活動を推進し、一定の成果を上げることができました。

「4つの道しるべ」の進捗につきましては「CSR重要課題『4つの道しるべ』に関する2015年度の取り組み状況について」(p.16)をご覧ください

コムシスグループの経営理念を新たに策定

コムシスグループは、通信建設業界のリーディングカンパニーとして、今後の環境変化を展望した「あるべき姿」を明確化し、同時に情報開示の充実を図るため、グループとしての経営理念を策定しました。

この経営理念は、「お客様」「社会」「株主およびグループ従業員」という3つの軸に基づいて策定しています。

一つ目の「時代をになう多様なインフラ建設」は、われわれの事業が電気通信設備だけではなく、社会・経済活動を根底から支えるさまざまな分野に広がっていることを表しています。そして、施工品質・納期・価格などの面で最高の評価をいただける企業グループを創り上げるという、お客様に向けたメッセージとなっています。

二つ目の「豊かな生活を支える社会基盤づくり」は、国や地域社会に貢献していくというグループ使命を表現したものです。

三つ目の「たゆまない改革を続け」は、主にグループ従業員を念頭に置いたものであり、生産性の向上やコスト競争力の強化によって、競争環境に打ち勝つ構造改革の取り組みを継続していくという明確な意志を、社外の皆さまにも示したも

のです。また、「さらなる企業価値の向上」は、株主・投資家の皆さまへのメッセージとして策定しています。

以上の「あるべき姿」を、グループが一体となり、外部パートナーとも連携を図りながら具現化していくことを、理念の冒頭で示しました。

このグループ経営理念は、われわれが行動し、判断し、挑戦するときの「拠り所」となるものでもあります。



コムシスグループが中長期ビジョンを実現し、社会的使命を果たすためには、従業員一人ひとりがこの経営理念をしっかり胸に刻み込み、それぞれが本業を通じたCSRを強く意識することが大切です。具体的には、「4つの道しるべ」をベンチマークとして、引き続きCOMSYS WAY[®]に取り組む所存です。

今後も通信建設業界のリーディングカンパニーとして、コムシスグループならではの活動を推進することにより、さまざまなステークホルダーの期待に応え、社会に貢献できる企業として成長を目指します。

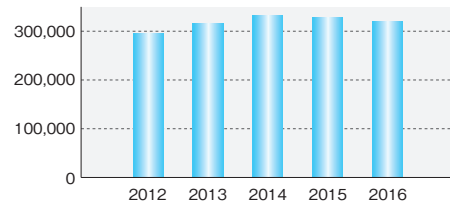
今後とも、皆さまの変わらぬご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

財務ハイライト

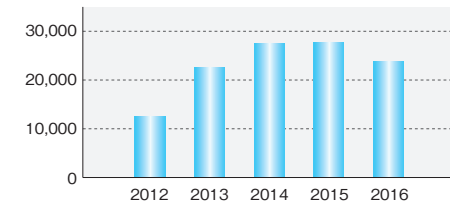
経営成績

項 目	2012.3	2013.3	2014.3	2015.3	2016.3
売上高 (百万円)	295,851	316,092	331,341	328,631	320,654
営業利益 (百万円)	12,592	22,547	27,570	27,674	23,849
経常利益 (百万円)	12,969	22,914	28,078	28,121	24,223
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	7,173	13,284	16,389	16,767	15,420
一株当たり当期純利益 (円銭)	55.50	106.82	136.08	142.72	136.75
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円銭)	55.38	106.4	135.34	141.90	136.18

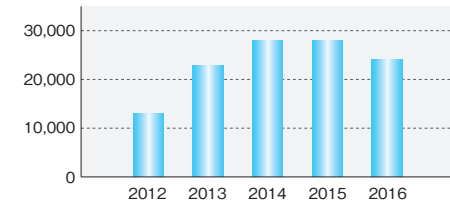
売上高 (百万円)



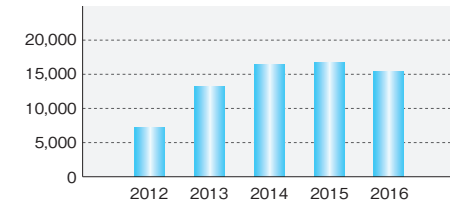
営業利益 (百万円)



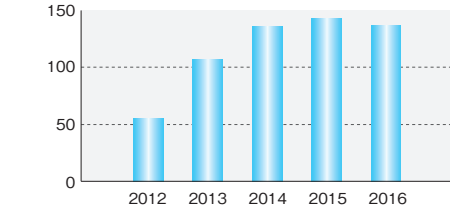
経常利益 (百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



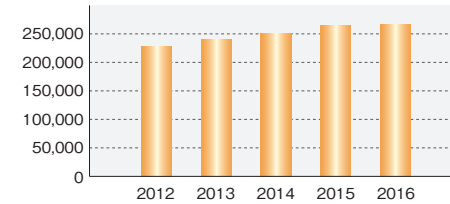
一株当たり当期純利益 (円銭)



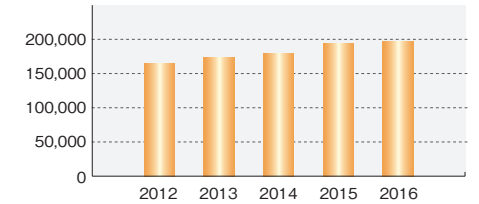
財政状態

項 目	2012.3	2013.3	2014.3	2015.3	2016.3
総資産 (百万円)	228,135	240,602	250,561	264,019	266,066
純資産 (百万円)	164,574	173,411	179,414	194,038	196,543
自己資本比率 (%)	71.7	71.6	71.1	73.0	73.4
一株当たり純資産 (円銭)	1,289.57	1,401.05	1,514.73	1,682.70	1,764.13

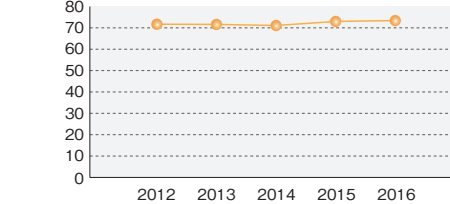
総資産 (百万円)



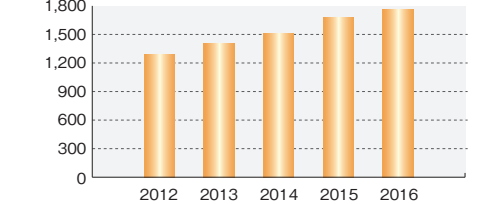
純資産 (百万円)



自己資本比率 (%)



一株当たり純資産 (円銭)



事業多様化に対する グループ各社の取り組み



コムシスグループは創立以来、社会インフラを根底から支え、次世代へと発展させていくさまざまなインフラ建設に取り組んでまいりました。今後はこれまでに培ってきた通信インフラ建設に加え、社会生活を支える多様なインフラ建設を進めるなど事業の多様化を図り、これまで以上の社会貢献と企業価値の向上を目指します。

日本コムシス

TOSYS

つうけん

光回線のリセール事業の開始

コムシスグループでは、新たなビジネスモデルとして、NTT東日本・西日本様の光ファイバー回線を使ったインターネットアクセス回線・光電話サービスを提供しています。

ビジネスでも、ご家庭でも

つうけんでは、2015年3月より、100%子会社であるつうけんアドバンスシステムズを主体に回線リセール業の拡大に向けて「つうけん光」サービスをつうけんグループ全体で展開しています。TOSYSでも同様に2015年10月より「TOSYS光」を提供しています。つうけん光とTOSYS光は、NTT東日本・西日本様が提供する「フレッツ光」の通信パフォーマンスを維持しながら、月々のご利用料金を抑えることのできるサービスです。このサービスを積極的に推進し、法人顧客・一般顧客双方のお客



様獲得に取り組んでいます。

ビジネスで

日本コムシスでは、2015年10月より、法人様向けに「コムシス光」のサービス提供を開始しました。これまで、通信事業者の依頼を受け、主にネットワーク設備に関連する事業を行ってきましたが、新たなサービスとして、光回線の販売に加え、お客様システムの提案から構築・保守・運用までワンストップでサービスを提供しています。



本サービスの最大の魅力は、業界最安値の通話料金と、業界唯一である24時間・365日電話受付サービスにより、他の光コラボ事業者にないコストとアフターフォローにて安心してご利用いただけることです。「コムシス光」はストックビジネスの大きな一歩であり、今後もトップラインの拡大を目指し、新たな事業拡大に取り組んでいきます。

コムシスグループでは、こうした光回線のリセールサービスを通じて、お客様に安価で質の高いサービスをお届けし、社会の発展に益々寄与していきます。

海外事業への取り組み

サンコム

サンコムは、コムシスグループにおいて海外事業を展開する唯一の会社です。サンコムの海外事業は長い歴史を持ちます。1963年のインドネシアにおけるマイクロ波通信設備の建設工事に始まり、以来、半世紀にわたり世界50カ国以上で数多くの施工実績を築いてきました。現在では、一括工事請負のほか、エンジ



潮位計の設置

ニアリング業務、現地調査、技術者派遣など、国内事業と同様に幅広い事業を展開し、光通信ネットワークの構築、海底ケーブル陸揚げ局工事、マイクロ波通信設備の建設、プラント通信設備およびセキュリティシステムなど、国際的なネッ

トワークとシステム構築に大きく貢献しています。

海外での事業展開一例として、政府のODA（政府開発援助）案件での取り組みがあります。政府では東日本大震災後の海外向けの取り組みとして、ODAにより環太平洋諸国などに日本の先端技術を導入するために、地震や津波の速報、雷検知やその他気象観測に役立つ防災関連機材を納入しており、これを受けてサンコムでは地震計・潮位計・雷検知器などの設置を行っています。2015年度にはブータン王国、バヌアツ共和国、ペルー共和国において防災関連システム工事を完工しました。

サンコムでは今後も、海外事業のさらなる拡大を通じて国際貢献を果たします。

●現場の声

TSUNAMI（津波）が世界共通語になるほど、日本の災害に対する取り組みや技術が注目されています。

ODA案件は発展途上国で実施されますので劣悪な場所で生活しなければなりません。また日本人も自分だけという環境の中、現地で雇うサブコントラクターやお客様との信頼関係を築くために、気候、言葉、生活習慣、宗教の違いを感じ、それを考慮しながらコミュニケーションをとることに苦労しました。

その反面、観光客が行かないような場所にも滞在できましたし、現地の生活習慣に直にふれることができたので貴重な経験となりました。

今後も現地の方と協力しながら、発展途上国の防災に貢献していきたいと考えています。



サンワコムシスエンジニアリング
社会システム事業本部
エンジニアリング本部
技術主任
大山 晃一

機械器具設置への事業拡大

TOSYS

通信インフラ設備市場を取り巻く環境は変化しており、インフラ設備の拡充競争の時代からサービスメニューやコンテンツを競う段階に移行しつつあります。これに伴いTOSYSでは、通信建設工事で培った技術者やノウハウを生かすことで、電気設備から機械器具設置工事まで、通信建設工事周辺への事業領域拡大を図っています。



日本アフター工業

このような環境のもと、TOSYSは2015年12月に、日本アフター工業を完全子会社化する経営統合を行いました。

日本アフター工業は、長野県全域を営業エリアとして官公庁などの発注による揚水用ポンプ設置、農業用散水設備、薬注設備工事、温泉源泉ポンプ工事や同メンテナンスを中心に計装・電気工事なども手がけており、設立以来30年以上に及ぶ実績や経験によって、発注者から厚い信頼を獲得しています。

今後はTOSYSグループとして、長野県を中心とする対象地域、事業分野などについて両社の強みを生かした事業展開と経営資源の連携によるシナジーを発揮し、成長戦略を強力に推進することで、企業価値の一層の向上を図ります。

物資輸送事業への拡大

つうけん

つうけんは2015年7月、北海道エリアにおいて通信資材の輸送などを行う北海道電電輸送を完全子会社化しました。今回の完全子会社化を通じた物資輸送事業への拡大は、物流体制の強化・効率化が図られることに加え、つうけんグループ各社と重複する業務については、リソースやノウハウの共有・統合による経営の効率化や、シナジーを生かした事業領域の拡大が見込まれます。

また、北海道電電輸送では通信資材の輸送のほか、荷役事業や、冬季における除雪事業も担っており、同社の完全子会社化による収入増にも期待を寄せています。



北海道電電輸送



交換局除排雪の様子

産業廃棄物リサイクルへの貢献

つうけん

廃棄物処理業（リサイクル事業）、貨物運送業、建設業を展開する東亜建材工業では、「廃棄物の可能な限りの資源化」にも積極的に取り組んでいます。

情報通信工事においては、環境に配慮した産業廃棄物の収集、運搬および処理が事業継続を考える上で、非常に重要な課題となりつつあります。

つうけんが2015年8月に東亜建材工業を完全子会社化したことで、つうけんグループは「産業廃棄物処理会社」として、NTT東日本様から認定を受けることとなりました。これにより、NTT東日本様が撤去したケーブルやCP（電柱）などの廃棄物処理作業を、つうけんグループとして請け負えるようになりました。なお、撤去したメタルケーブルを銅として再利用することも可能となります。

つうけんグループが拠点とする札幌市近郊では、今後さまざまなインフラ整備事業が予定されており、これに伴い整地や既存建物の解体、新建物の建築などの発生が見込まれています。

インフラ整備事業に加え、廃棄物処理も請け負うことが可能になり、より広範囲な領域で地域に貢献できるようになります。



夕張処理場



千歳市長都処理場

特集 2 環境・エネルギーに関する取り組みを拡大



コムシスグループでは、グリーンエネルギーの創出による地域社会および地球環境へ配慮した事業を継続的に展開しています。ここでは環境・エネルギーに関するグループ各社の取り組みについて紹介します。

太陽光発電事業の継続的な取り組み

日本コムシス

日本コムシスグループでは、2013年4月に第1号の大規模太陽光発電所を稼働して以来、発電事業を継続的に実施しています。2015年度は6カ所の太陽光発電所を稼働させました。

第6号 サン・ファーム北条 つくば（つくば太陽光発電所）

【概要】

所在地	茨城県つくば市北条永瀬
敷地面積	約27,600m ²
発電容量	約1,900.8kW
発電量	年間約200万kWh
パネル数	6,336枚
稼働開始日	2015年6月9日
施工会社	日本コムシス株式会社
発電事業者	コムシスクリエイト株式会社



第7号 サン・ファーム大栄 伊賀（伊賀市三田太陽光発電所）

【概要】

所在地	三重県伊賀市三田
敷地面積	約27,500m ²
発電容量	約1,861kW
発電量	年間約200万kWh
パネル数	6,102枚
稼働開始日	2015年8月25日
施工会社	日本コムシス株式会社
発電事業者	コムシスクリエイト株式会社



第8号 サン・ファーム中川 土浦（土浦市太陽光発電所）

【概要】

所在地	茨城県土浦市菅谷町
敷地面積	約17,300m ²
発電容量	約1,373kW
発電量	年間約140万kWh
パネル数	4,360枚
稼働開始日	2015年11月30日
施工会社	日本コムシス株式会社
発電事業者	コムシスクリエイト株式会社



第9号 サン・レイクス屋度 加東（加東市屋度大池太陽光発電所）

【概要】

所在地	兵庫県加東市屋度字柳入、大縄場
敷地面積	約56,600m ²
発電容量	約2,009kW
発電量	年間約210万kWh
パネル数	8,036枚
稼働開始日	2015年12月18日
施工会社	日本コムシス株式会社
発電事業者	コムシスクリエイト株式会社



第10号 サン・ファーム穂高 安曇野（安曇野市穂高太陽光発電所）

【概要】

所在地	長野県安曇野市穂高有明
敷地面積	約14,000m ²
発電容量	1,142kW
発電量	年間約120万kWh
パネル数	4,312枚
稼働開始日	2015年12月25日
施工会社	日本コムシス株式会社
発電事業者	コムシスクリエイト株式会社



第11号 サン・ファーム中村 五島（五島市福江島太陽光発電所）

【概要】

所在地	長崎県五島市岐宿町中嶽
敷地面積	約16,300m ²
発電容量	約1,246kW
発電量	年間約130万kWh
パネル数	4,704枚
稼働開始日	2016年3月23日
施工会社	日本コムシス株式会社
発電事業者	コムシスクリエイト株式会社



コムシスグループ初の水上フロート式太陽光発電所 日本コムシス

日本コムシスでは、2015年12月に兵庫県加東市にある農業用のため池に、太陽光パネル8,036枚を浮かべた、水上フロート式太陽光発電所の稼働を開始しました。水上に太陽光パネルを浮かべるフロート式太陽光発電所としては、コムシスグループ初となります。

この工事では、水上での作業量を最小化するため、陸上でユニットごとに組み立ててからクレーンで水面に降ろし、ロープで引っ張って本体に連結させる工法により効率化を図りました。

また、水上フロート式太陽光発電のメリットは発電効率にあります。通常の太陽光発電は表面温度が1℃上昇すると発電効率は約0.5%低下します。しかし、水上ではパネルの冷却効果が期待できるため、高い発電効率を実現できます。また、パネルが水面を覆うため、貯水の蒸発量軽減や藻類の異常発生を抑制し、水質改善効果も期待できます。

水上フロート式太陽光発電所ができるまで



1 部材組み立て



2 ユニットごとにフロート・部材組み立て



3 パネルを設置



4 クレーンで吊り上げ



5 ユニットを連結



6 ロープで引っ張り水上移動



7 完 成

EPC 事業の継続的な取り組み

日本コムシス
サンコム
TOSYS

日本コムシスでは、EPC事業に積極的に取り組んでおり、2015年度はLIXIL綾部SOLAR POWER、オリックス宇部太陽光発電所、シモハナ物流一宮第二センター太陽光発電所などの太陽光発電設備工事を実施しました。



感謝状 (TOSYS)

サンコムでは、2014年度に引き続き、「太陽光発電設備工事」を推進していま

す。2015年度は、千葉県成田市、茨城県小美玉市、栃木県宇都宮市、静岡県御殿場市、広島県東広島市など、各地域において太陽光発電設備工事を実施しました。

TOSYSでは、長野県小県郡長和町にNTTファシリティーズ様発注による、「F長和太陽光発電所」構築工事を実施しました。

また構築工事の竣工にあたりNTTファシリティーズ様より感謝状をいただきました。

コムシスグループでは、今後もこのような太陽光発電事業を通じて地球環境負荷の軽減に貢献していきます。

太陽光発電による電気自動車を導入

日本コムシス

日本コムシスでは、2015年8月に太陽光発電設備で発電した電力を利用する電気自動車を工事車両として導入しました。

この電気自動車は、ビル屋上に設置した太陽光発電設備からリチウムイオン蓄電システムを経由して充電します。蓄積された電力は工事の際の電源としても使用が可能でエンジン発電機を使用しないため、深夜作業などにおける騒音問題も緩和されます。



さらに災害時には、発電した電力を蓄電池と電気自動車に貯めることができるので、電気自動車を被災地での非常用電源としても活用することができます。

日本コムシスでは、すでに5台の電気自動車を工事車両として導入しており、クリーンエネルギーで環境に配慮した工事の推進を図りながら、地域住民への配慮ならびに地域の発展に益々寄与していく方針です。



太陽光発電を使用して走行する電気自動車



屋上に設置されている太陽光パネル

住宅向け蓄電池設置工事の実施

サンコム

サンコムでは、2015年度、個人住宅向けの蓄電池設置工事を請け負い、全国で約1,000件の住宅向けに蓄電池を設置しました。

蓄電池は、災害時の非常用電源として使えるだけでなく、電気代が安価である夜間帯に蓄電することにより、電力需要のピークの山を減らすことができ、発電するためのエネルギーの無駄を減らすことができます。また、太陽光発電と組み合わせることにより、家庭で発電した電力を蓄えておくことができるようになります。

この蓄電池設置工事を通じて、限りある資源の効率的な活用に貢献します。

国内初 太陽光発電主軸の電力小売事業「じぶん電力」導入

日本コムシス

日本コムシスグループの日本エコシテムは2016年4月より、再生可能エネルギーの太陽光発電を主軸とした電力小売事業「じぶん電力」を導入しました。



本事業は、電力を購入されるお客様の屋根に太陽光発電システムを無償設置し、太陽光発電設備で発電した電気を活用した電力小売事業で、国内初の取り組みです。

メリットはお客様の設備投資負担がないこと、また長期停電時も自家発電として使えることです。アメリカではすでに人気のビジネスモデルですが、日本では日本エコシテムが初めて導入しました。

日本コムシスグループでは、今後も地球環境への取り組みを継続するとともに、お客様の期待に応え、社会に貢献できる企業として成長を目指します。

LED 照明灯への切り替えで明るいまちづくりへ貢献

日本コムシス

LED照明は、CO₂ の排出量を削減できるなど環境にも配慮しているため、街路灯をLEDに切り替える自治体が増えています。

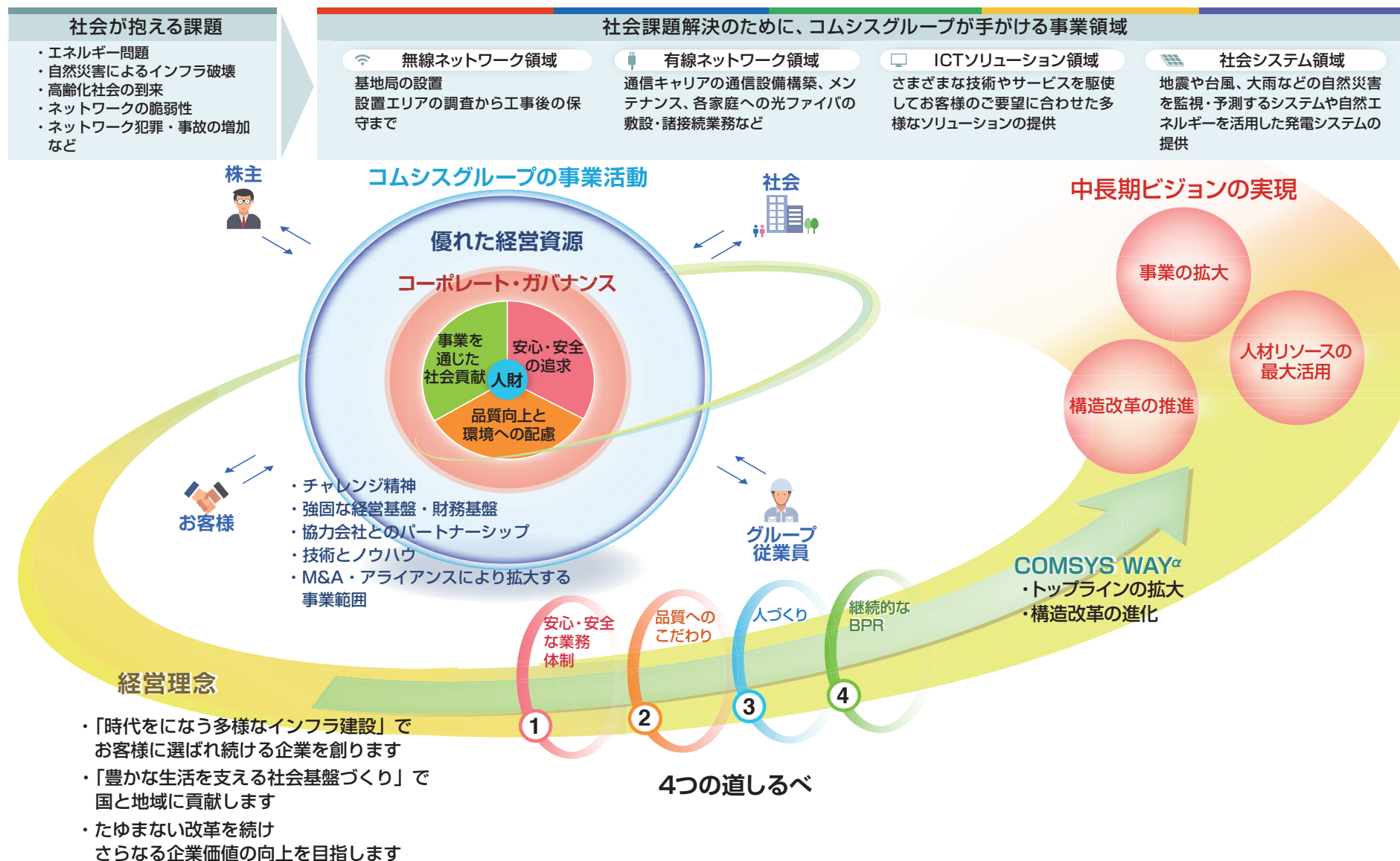
日本コムシスでは、2015年7月から11月にかけて、千葉縣市川市の水銀灯道路照明灯7,274基をLED照明灯に切り替える工事を請け負いました。

電力消費量が従来の照明の約3分の1になるLED照明に切り替えることで、15年で約6億円の財政負担の削減が期待できるほか、CO₂ 排出量の削減などによる環境負荷の軽減や、明るくなることによる事故の減少も見込めます。地域住民の方から「私の地域はまだですか」とうれしい声をかけられるなど地域の発展に尽力しました。

日本コムシスでは今後も、高い技術と品質を生かし、環境にも配慮した明るいまちづくりに貢献していきます。

3 コムシスグループの価値創造プロセス

コムシスグループでは、独自の価値創造プロセスによって企業価値を創造し、国と地域に貢献します。



コムシスグループの事業活動

コムシスグループは、「人財」を核に「安全・安心の追求」「品質向上と環境への配慮」「事業を通じた社会貢献」を強く意識した事業活動を行っています。経営面ではガバナンス機能を発揮し、経営効率の強化と経営健全性の維持・強化に努めています。

厳しい競争環境の中で事業を優位に展開する上では、「強固な経営基盤・財務基盤」「技術とノウハウ」「チャレンジ精神」「協力会社とのパートナーシップ」といった優れた経営資源が大きな役割を果たします。

事業活動を行う上で、ステークホルダーへの配慮は欠かせません。今後も、「株主」「社会」「お客様」「従業員」などさまざまなステークホルダーの皆さまと良好な関係を維持・向上させてまいります。

コムシスグループが目指すもの

コムシスグループでは2015年11月、コムシスグループ経営理念を策定しました。今後はこの経営理念を全従業員に浸透させ、ステークホルダーの皆さまへの一層の貢献を果たしながら構造改革「COMSYS WAY[®]」を進め、グループ一丸となって中長期ビジョン*の実現に向けて取り組みます。

*中長期ビジョン

10年後におけるビジネス環境を見据えたビジョンであり、「事業の拡大」「人材リソースの最大活用」「構造改革の推進」の3つを重点取り組み項目として定めています。

CSR重要課題「4つの道しるべ」に関する 2015年度の取り組み状況について



コムシスグループでは、2013年度に選定した4つの重点課題「4つの道しるべ」に沿った中期的なCSR目標を設定し、達成に向けて活動を推進しています。

ここでは、これらの活動状況についてご紹介します。

2015 年度の取り組みについて（総括）

* 評価について

「S」・・・A以上の成果が得られた

「A」・・・目論見どおりの成果が得られた

「B」・・・ほぼ目論見どおりの成果が得られたが、一部に課題が残った

「C」・・・ある程度の成果が得られたが、課題も多く残った

「D」・・・あまり成果が上げられず、多くの課題が残った

項目	ベンチマーク	評価*	2015年度の取り組みについての総括	参 照 ページ
安心安全な業務体制	仲間を守り、お客様のプライバシーを守る取り組みを進める			
	労働災害発生度数率 2014年度未満	C	不安全行為の防止徹底と事故撲滅に対する意識付けの強化などにより、安全への意識を高めた。 日本コムシスは重傷人身事故（落下、転落、転倒など）の抑制ができ目標を達成したが、その他3社では労働災害が発生してしまった。	P.29
	セキュリティ事故0件	B	情報漏えいには至っていないが、3社でインシデントが発生した。 発生件数は減少しており、情報セキュリティの重要性に対する理解・浸透を図ることで、セキュリティ事故撲滅に努める。	P.32
品質へのこだわり	協力会社を含む安全研修実施率100%	A	現場で行うブチ研修、情報セキュリティ研修、職長研修、安全交通研修などにつき、グループ会社および協力会社にて高い実施率を実現。目標を達成した。	P.31 P.44
	労働の質を高め、省エネ・省力化の創意工夫でサービス品質を追求			
	エネルギー消費（省エネ法） 5年間で2011年度比 実質5%削減	A	事業所の集約や照明のLED化をはじめとした節電施策を推進し、各社とも目標達成に向けて取り組みを強化。 4社が目標を達成し、事業を拡大している2社も前年比では5%以上の削減が実現できており、ほぼ目標水準を超えている。	P.39
品質へのこだわり	古紙リサイクル率90%以上	A	分別の徹底などにより、古紙リサイクル率の向上に向けた取り組みを進めた結果、ほぼ目標水準を超えることができた。	P.40
	改善提案・VE提案の質の向上	A	積極的に提案を促した。日本コムシスにおける「クリエイティブ賞」の新設など、各社とも現場のモチベーション向上につながる工夫がなされた。	P.35

人づくり	ワークスタイルの刷新で活力ある人づくりに注力			
	時間外労働の効率化	C	各社とも時間外労働の短縮に取り組んだが、業容が拡大する中で短縮には至らず、微増傾向となっている。業務の効率化などを通じて、改善を目指す。	P.50
	ダイバーシティマネジメントの推進	B	女性活躍推進法に基づき、育児休暇を取得しやすい環境づくり、女性の新卒採用の積極化など、障がい者の労働環境整備についても改善を進め、障がい者の雇用も着実に進展している。	P.49
	研修カリキュラムの完全履行	A	新入社員研修、階層別管理職研修など、各社とも、設定したカリキュラムに基づき実施。今後も継続的な実施を予定。	P.43
継続的なBPR	どんな経営環境でも乗り越える筋肉質で強い会社を目指す			
	トップラインの拡大（新規事業開拓）	B	「ITソリューション事業」と「社会システム関連事業等」の合計売上は、計画未達も、前期比で増加。 ・「光コラボレーションモデル」を利用した、光回線サービスの提供 ・太陽光事業を含めたグリーンイノベーション事業への参画 ・電力の小売全面自由化に伴う、太陽光発電を活用した電力小売事業への参入 ・M&A・アライアンスなどの強化による事業領域の拡大 ・公共投資・ICT投資の増加に対応した受注活動 ・政府の推進する「スマート社会」へ向け、新たな事業領域へのチャレンジを図った ・インフラの老朽化対策や保守業務の受託 ・農業土木市場での第1号案件受注	P.7 P.10 P.23
	構造改革の進化によるさらなる利益率向上	C	計画未達、前期比でも実績低下。 ・営業利益率の推移 2013年度：8.3% → 2014年度：8.4% → 2015年度：7.4% ・マルチスキル・マルチロケーションの実現による需要変動を吸収できる体制づくり ・成長事業分野への要員流動、施工効率の向上 ・キャリア系工事におけるITプラットフォームの活用による、業務プロセスの標準化	P.7 P.23 P.36

2015年度の取り組みについて（各社ごとの取り組み状況）

項目	ベンチマーク	評価*	各社ごとの取り組み状況	
安心安全な業務体制	仲間を守り、お客様のプライバシーを守る取り組みを進める			
	労働災害発生日数率 2014年度未済	C	労働災害発生日数防止に努めたものの、労働災害が発生してしまっ た。	
			【日本コムシス】 重傷人身事故（落下、転落、転倒など）防止 が図られた。	
			2014年度	0.19%
			2015年度	0.00%（目標達成）
			【サンコム】	
			2014年度	0.088%
			2015年度	0.673%
			【TOSYS】	
			2014年度	0.00%
			2015年度	0.66%
			【つうけん】	
			2014年度	0.00%
2015年度			0.51%	
セキュリティ事故0件	B	【日本コムシス】 【サンコム】 【TOSYS】 情報漏えいには至っていないが、インシデントが発生してし まった。		
		【つうけん】 【COMJO】 【CSS】 セキュリティ事故、インシデントともに0件を達成した。		
協力会社を含む安全 研修 実施率100%	A	【日本コムシス】 ・現場で行う研修（プチ研修） 実施率：100%		
		【サンコム】 ・情報セキュリティ研修（半期に1回、年2回実施） 4,320名受講 実施率：100%		
		・職長研修（安全を中心とした教育） 473名受講 実施率：100%		
		【TOSYS】 ・新規職長教育 実施率：100%		
		・職長再修科教育 実施率：100%		
		・高所作業車特別教育 実施率：100%		
		【つうけん】 ・安全作業における教育および個人情報保護教育 実施率：100%		
		・高所安全作業技能認定研修 1,146名受講		

項目	ベンチマーク	評価*	各社ごとの取り組み状況
品質へのこだわり	労働の質を高め、省エネ・省力化の創意工夫でサービス品質を追求		
	エネルギー消費（省エネ法） 5年間で2011年度比実質5%削減	A	【日本コムシス】 2015年度 電力使用量 10,736,557kWh 2011年度比 5.7%削減
			【サンコム】 2015年度 電力使用量 1,244,777kWh 2011年度比 23.9%増加 ・事業拡大のため電力使用量は増えているが、2014年度比では▲7.9%となっている。
			【TOSYS】 2015年度 電力使用量 1,611,626kWh 2011年度比 26.2%増加 ・新事業所の開設により電力使用量は増えているが、2014年度比では▲7.5%となっている。
			【つうけん】 2015年度 電力使用量 2,135,119kWh 2011年度比 24.9%削減
			【COMJO】 2015年度 電力使用量 508,804kWh 2011年度比 8.0%削減
			【CSS】（本社移転のため、4-12月の実績で比較） 2015年度 電力使用量 82,100kWh 2011年度比 20.1%削減
	古紙リサイクル率 90%以上	A	【日本コムシス】 2015年度古紙リサイクル率 93.5%
			【サンコム】 2015年度古紙リサイクル率 100%
			【TOSYS】 2015年度古紙リサイクル率 100%
			【つうけん】 2015年度古紙リサイクル率 88.5% （本社移転の際、古紙を大量に廃棄処分したため）
			【COMJO】 2015年度古紙リサイクル率 97.0%
			【CSS】 2015年度古紙リサイクル率 100%

品質へのこだわり	改善提案・VE提案の質の向上	A	【日本コムシス】 ・2015年度（上級提案数）数値：479件 ・「クリエイティブ賞」を新設しモチベーションの向上を図った ・NTT東日本・西日本様へのVE提案採用案件5件が情報通信エンジニアリング協会よりSKY選奨として表彰 ・ドコモ事業本部関西事業部門：NTTドコモ関西支社様よりVE提案の本社提案賞を受賞 ・ドコモ事業本部アドオンセル推進PT：ドコモ建設業務改善活動発表会にて優良賞を受賞
			【サンコム】 2015年度 サンコム式カイゼン 提案件数 2,730件（2014年度 +71件） （提案実施：1,908件 提案のみ：882件） ※一人あたりの提案件数4.50件（2014年度 +0.38件）
			【TOSYS】 ・MH鉄蓋取替工事におけるコンクリート破砕屑の落下防止対策 ・ガス監視システムの雷害対策方法の改善 ・地際用電柱補強板（単独柱・共架柱）の開発
			【つうけん】 ・開発パートナー制度 各拠点に提案拠点責任者、開発パートナー担当者を選出・配置し提案活動の活性化を目指す。 ・SKY選奨を3件受賞 ・VE提案：高所作業車用バケットカバーの対応車両の拡大 ：光ボックスへのドロップ挿入方法の改善 ：光成端架（FTM）への作業ライトの導入
			【COMJO】 ・COMJO現場改善活動 自分たちの現場力を磨き、働きがいがある、明るく楽しい現場に変革すべく全社員が活動する。 ・社外からの表彰 「NECソリューションイノベータ 優良取引先表彰」 「日本電気ベストサプライヤ表彰」 「NTTデータ優秀プロジェクト表彰」
			【CSS】 ・カイゼン活動は毎月進捗報告、年2回カイゼン発表大会を実施。内容は業務効率化や5Sなど。

項目	ベンチマーク	評価*	各社ごとの取り組み状況
人づくり	ワークスタイルの刷新で活力ある人づくりに注力		
	時間外労働の効率化	C	【日本コムシス】 - 労働時間等改善設定会議の定期開催（四半期ごと） 「産業医面談の実施」：（対象）3カ月平均80時間以上の社員が実施するチェックリストにおける高ストレス者 - 一人あたり平均月間時間外労働時間数は2014年度より減少 - 一人あたり有給休暇取得日数は2014年度より増加 【サンコム】 「時間外勤務命令管理簿」の活用 「定時退社日の設定」：毎週水曜日と金曜日 「産業医面談の実施」：（対象）1カ月100時間以上、2カ月平均80時間以上 「ブリッジホリデイの設定」による有給休暇取得促進 - 健康管理室の開催（本社にて開催：月3回～4回） - 一人あたり平均月間時間外労働時間数は2014年度より増加 - 一人あたり有給休暇取得日数は2014年度より減少 【TOSYS】 「定時退社日の設定」：毎週水曜日、毎月10日（安全誓いの日） 「産業医面談の実施」：（対象）月45時間以上が3カ月連続 - 一人あたり平均月間時間外労働時間数は2014年度より増加 - 一人あたり有給休暇取得日数は2014年度より増加 【つうけん】 「定時退社日の設定」：毎週水曜日 「産業医面談の実施」：（対象）月50時間以上が2カ月連続 - 一人あたり平均月間時間外労働時間数は2014年度より増加 - 一人あたり有給休暇取得日数は2014年度より増加 【COMJO】 - 月1回、戦略会議にて経営TOPに状況報告し、対策検討 - 深夜・休日勤務の事前チェックの強化 「定時退社日の設定」：毎週水曜日 「産業医面談の実施」：（対象）1カ月100時間以上、連続3カ月80時間以上 - 一人あたり平均月間時間外労働時間数は2014年度より増加 - 一人あたり有給休暇取得日数は2014年度より減少 【CSS】 2015年度 一人あたりの時間外平均は15.6時間 - 時短プロジェクトで10時間目標を設定 「定時退社日の設定」：毎週水曜日 「産業医面談の実施」：（対象）1カ月80時間以上 - 一人あたり平均月間時間外労働時間数は2014年度より増加 - 一人あたり有給休暇取得日数は2014年度より増加

人づくり	ダイバーシティマネジメントの推進	B	【日本コムシス】 - 障がい者雇用に向け業務の切り出しの実施。求人票をハローワーク（2カ所）へ提出（応募は無し） - 障がいを問わない職場環境の整備は不十分 - 障がい者の雇用率は1.4%→1.95%へ改善 【サンコム】 - 障がい者雇用制度の促進（現状8名：法定雇用率達成まで1名） 【TOSYS】 - TOSYS女性社員による座談会開催 - 採用数（女性採用数） 2014年：10名（3） 2015年：8名（1） 2016年：9名（2） 【つうけん】 「女性活躍推進法」の施行開始に伴う一般事業主行動計画の策定 - 採用数（女性採用数） 2014年：9名（1） 2015年：7名（1） 2016年：11名（0） 【COMJO】 - 採用数（女性採用数） 2014年：15名（3） 2015年：15名（3） 2016年：13名（3） - テレワーク／在宅勤務については、「モバイルSE支援システム」の活用により、社外からスマートフォン、タブレット、PCで社内ポータル（メール、勤務入力、掲示板など）の利用を実現（全社員の70%以上が利用） 【CSS】 - 女性比率：社員（出向、契約社員含む）55%、プロジェクトリーダー 62%、管理職 18% 60歳以上の社員5名（シニア社員・エキスパート社員）
	研修カリキュラムの完全履行	A	【日本コムシス】 - 階層別研修： 対象者数 842名 受講者数 842名 履行率 100% 【サンコム】 - 階層別研修： 対象者数 138名 受講者数 137名 履行率 99.2% 【TOSYS】 - 階層別研修： 対象者数 21名 受講者数 20名 履行率 95.2% - 評価者研修： 対象者数 116名 受講者数 112名 履行率 96.5%

人 つ く り	研修カリキュラムの 完全履行	A	【つうけん】 ・階層別研修： 対象者数 36名 受講者数 36名 履行率 100% ・評価者研修： 対象者数 227名 受講者数 227名 履行率 100% ・被評価者研修： 対象者数 437名 受講者数 437名 履行率 100%
			【COMJO】 ・階層別研修： 対象者数 44名 受講者数 44名 履行率 100%
			【CSS】 ・階層別研修（新規入場者）： 対象者数 33名 受講者数 33名 履行率 100% ・キャリア研修（自己理解）： 対象者数 31名 受講者数 31名 履行率 100%

項目	ベンチマーク	評価*	各社ごとの取り組み状況
継続的なBPR	どんな経営環境でも乗り越える筋肉質で強い会社を目指す		
	トップラインの拡大 （新規事業開拓）	B	【日本コムシス】 ・メガソーラー事業は2015年6カ所（つくば太陽光発電所・伊賀市三田太陽光発電所ほか）、全11カ所稼働 ・「コムシス光」サービスの提供開始 ・電力小売事業「じぶん電力」の提供開始 ・ネットワーク・コーポレーションとの資本業務提携によるBAS/BEMS市場への参入
			【サンコム】 ・太陽光発電設備工事、家庭用蓄電池設置工事の受注
			【TOSYS】 ・「TOSYS光」サービスの提供開始
			【つうけん】 ・「つうけん光」サービスの提供開始
	構造改革の進化による さらなる利益率向上	C	【日本コムシス】 ・子会社再編や、新規連結子会社へのIT武装化など、連子一体運営の強化 ・大阪府内の7事業所を集約し、エンジニアリング業務の総合センター構築 ・東京舗装工業の完全子会社化
			【サンコム】 ・バックヤード業務一元化と業務プロセスの抜本改善対策の推進
			【TOSYS】 ・日本アフター工業の完全子会社化
			【つうけん】 ・北海道電電輸送の完全子会社化 ・東亜建材工業の完全子会社化
			【COMJO】 ・受注案件管理フローなどのプロジェクト管理ノウハウの進化により、品質改善と利益率向上を実現
			【CSS】 ・日本コムシスの支店集約と4事業部化への対応による業務効率化

* 評価について

「S」・・・A以上の成果が得られた

「A」・・・目論見どおりの成果が得られた

「B」・・・ほぼ目論見どおりの成果が得られたが、一部に課題が残った

「C」・・・ある程度の成果が得られたが、課題も多く残った

「D」・・・あまり成果が上げられず、多くの課題が残った

2015年度活動報告

ステークホルダーの皆さまに向け、ともに社会的価値を創造していくための取り組み
GRIガイドライン4版を参考にしています。

コーポレート・ガバナンス → p.22～

経営の透明性・健全性向上、効率の良い組織運営を進める

- ▶ ガバナンス体制の整備
- ▶ 組織の活性化・効率化
- ▶ 内部統制・コンプライアンス
- ▶ 株主・投資家との対話

安心・安全の追求 → p.27～

安定した事業活動、安心・安全な労働環境を目指して

- ▶ 事業継続
- ▶ 労働安全衛生
- ▶ リスクマネジメント
- ▶ サプライチェーンへの配慮

品質向上と環境への配慮 → p.34～

お客様視点を踏まえたサービス品質の向上、地球環境課題の解決に向けて

- ▶ 品質へのこだわり
- ▶ お客様満足度向上に向けた取り組み
- ▶ 地球環境への配慮
- ▶ 環境保全について考える取り組み

人 財 → p.42～

働きやすさへの配慮、モチベーションの向上、パフォーマンスの発揮

- ▶ 人権の尊重
- ▶ 健康管理
- ▶ 社員のレベルアップ
- ▶ 従業員とのコミュニケーション
- ▶ ダイバーシティの推進
- ▶ ディーセントな労働条件の提供

事業を通じた社会貢献 → p.51～

事業を通じた社会貢献、コミュニティへの積極的な参画を図る

- ▶ 災害に対する取り組み
- ▶ 社会インフラへの貢献
- ▶ コミュニティへの積極的な参画
- ▶ 地域社会との交流

2015年度活動報告

ステークホルダーのさまざまな期待に応え、ともに社会的価値を創造していくための施策

コーポレート・ガバナンス

経営の透明性・健全性向上、効率の良い組織運営を進める

コーポレート・ガバナンスを強化しつつ、組織の活性化・効率化を進めます。

基本的な考え方

コムシスグループは、企業価値の向上を図るためには、コーポレート・ガバナンスの強化が重要であると認識し、その充実に努めることにより、各ステークホルダーから信頼・評価される真の実力を持った会社を目指すこととしています。

そのためには、会社経営の透明性・健全性の確立が不可欠であり、適切な情報開示の確保、コンプライアンスの推進、リスク管理の強化および当社グループの行動規範の徹底、内部統制の強化、事業活動に基づく社会への貢献について一層の定着を図っていく考えです。

■ ガバナンス体制の整備

ガバナンス体制

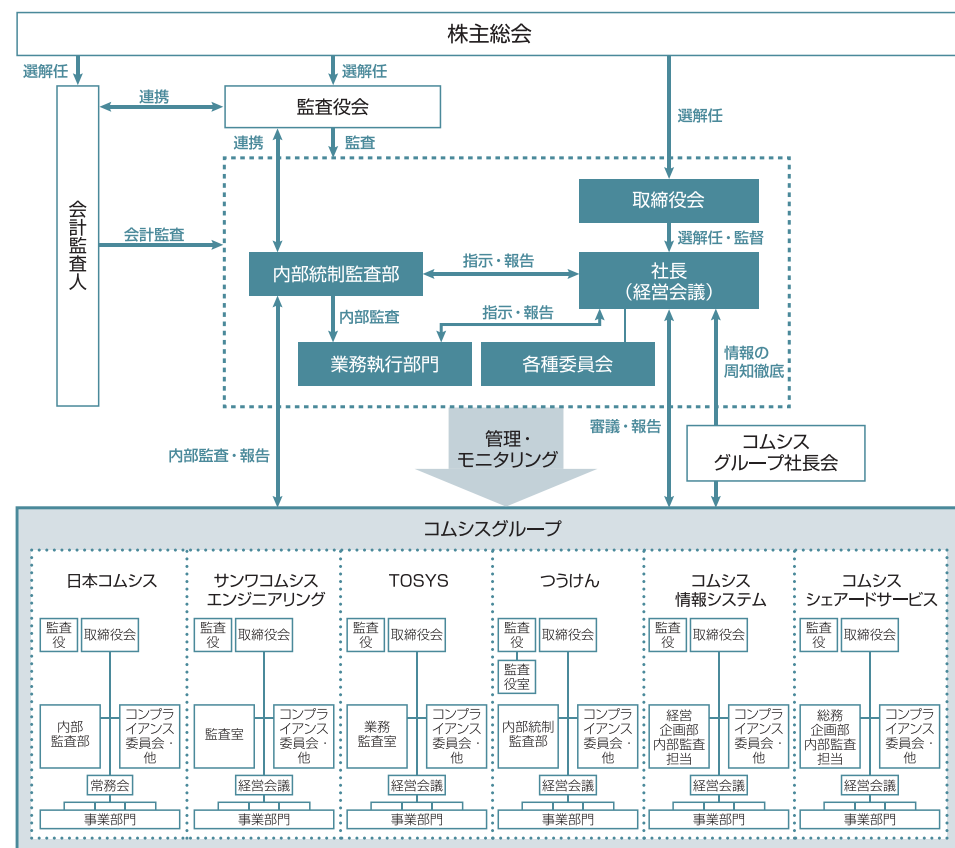
ガバナンス体制 コムシスホールディングス

— 継続的なBPR —

コムシスホールディングス（以下、当社）では、監査役設置会社制度を採用しています。

経営戦略に関する最高意思決定機関である取締役会は、当社事業に精通する取締役と独立した立場で経営監視を行う社外取締役で構成され、経営効率を高めるとともに、法的権限を強化された社外監査役による監査機能の充実を図ることにより、経営の健全性の維持強化に努めています。取締役会は12名の全取締役により構成され、取締役会規則に基づき定例取締役会と必要に応じて臨時取締役会を開催しており、法令で定められた事項および経営に関する重要事項について意思決定を行っています。取締役会の決定に基づく業務執行については、四半期ごとに担当取締役が取締役会に報告しています。社外監査役を含む監査役4名は取締役会に出席し、業務執行上の課題について意見を述べるとともに、取締役の業務執行を監視しています。社外取締役を除く取締役および常勤監査役で構成されている経営会議は原則月1回開催され、業務執行の効率化を高めるため、重要な意思決定事項について審議および決議を行います。経営会議には必要に応じて各組織長などがオブザーバーとして出席し、意思決定内容を的確に把握できるようにしています。また、各取締役の指揮のもと、担当業務別に執行会議を開催し、効率的な業務運営を行っています。

コムシスグループの業務執行体制、経営監視および内部統制を図式化すると、おもむね下図のとおりとなります。



2015年7月にコムシスグループ新任役員研修会を開催しました。

本研修会は、グループ各社の新任役員を対象として毎年継続して実施しています。

弁護士、公認会計士を講師に迎え、「取締役・監査役の職務と責任」および「役員が知っておくべき会計」についての講演を受け、グループのガバナンスの強化に努めています。

■ 組織の活性化・効率化

子会社化・経営統合

コムシスグループは、トップラインの拡大のため、M&Aやアライアンスなどの強化による事業領域の拡大に取り組んでいます。

日本コムシスは、既設中小規模ビルを中心としたビル制御システム（BAS：Building Automation System）事業および、ビルエネルギー管理システム（BEMS：Building Energy Management System）事業の展開により、建物を効率的に管理するお客様のニーズにお応えすべく、IT総合開発を担うネットワーク・コーポレーションと2015年7月に資本業務提携を行いました。また、2016年4月には、社会インフラ事業などにおける事業拡大のため、道路建設を中心に企業活動を営む東京舗装工業を完全子会社化しました。

TOSYSは2015年12月、事業領域の拡大を図るべく、長野県長野市にある機械器具設置工事を中心に事業を営む日本アフター工業を完全子会社化する経営統合をしました。

つうけんは2015年7月に通信資材の輸送などを行う北海道電電輸送を、8月に廃棄物処理業を行う東亜建材工業を完全子会社化しました。

これらの周辺事業分野での積極的な子会社化・経営統合を通じて、高度化するお客様のニーズを捉えるとともに、それぞれの強みを生かした広範囲な事業展開と経営資源の連携によるシナジーの最大化を通じ、グループとしての成長戦略を推進します。

大阪市住之江区にエンジニアリング業務の総合センターが完成 日本コムシス —継続的なBPR—

日本コムシスは、大阪エリアにおいて複数箇所に分散している拠点を集約するため、大阪市住之江区に「コムシス平林ビル」を建設し、2015年11月より業務を開始しました。



コムシス平林ビル外観

当ビルの完成に伴い、大阪府内の7拠点到分散していた事業所を集約し、グループ会社を含めた施工拠点の大規模再編を実施したことで、重複業務の解消による業務の効率化、リソース最大活用によるマルチ技術者育成などを推進しています。

■ 内部統制・コンプライアンス

内部統制

内部統制システムの整備 コムシスホールディングス

—継続的なBPR—

当社は会社法に基づき、取締役会が決議した「内部統制システム構築の基本方針」を踏まえ、内部統制システムを構築・推進しています。また、金融商品取引法に基づく「財務報告に係る内部統制」については、内部統制室を設置して財務報告のさらなる適正化に努めるとともに、継続的に内部統制を運用する体制を確立しています。

コムシスグループ行動規範 コムシスグループ

—継続的なBPR—

コムシスグループにおけるコンプライアンス（法令・企業倫理の遵守）を徹底するためには、グループ各社の従業員一人ひとりがコンプライアンス行動指針に基づいた日常行動を徹底することが求められます。コムシスグループの役員・従業員一人ひとりが具体的に遵守すべき行動原則として「コムシスグループ行動規範」を2010年3月に制定し、グループ各社の従業員全員が実践すべき行動を示しています。

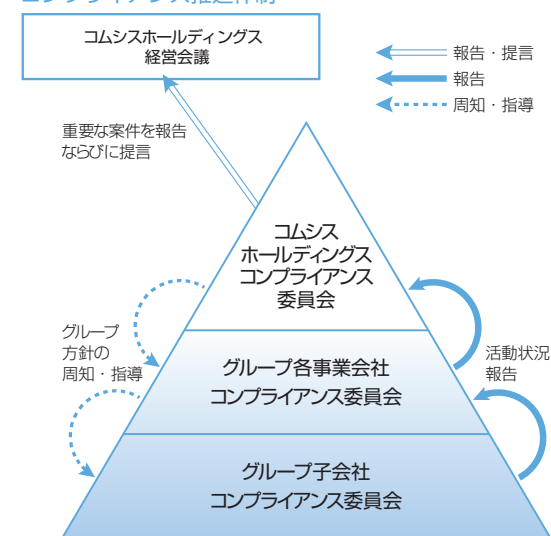
コンプライアンス体制

コンプライアンス推進体制の整備 コムシスグループ

—継続的なBPR—

2004年1月に制定された「コンプライアンス・プログラム」に基づき、コムシスグループのコンプライアンス体制の構築・強化に取り組んでいます。本プログラムで定めた「コンプライアンス行動指針」を、グループ共通の行動指針として各社のコンプライアンス規程などに反映しています。また、グループ各社のコンプライアンス担当役員、社外監査役などをメンバーとした「コンプライアンス委員会」を定期的に開催し、各社からの活動状況などの報告により情報を共有し、グループ各社の均質化に取り組んでいます。

コンプライアンス推進体制



コンプライアンス推進体制図

「コンプライアンス相談窓口」の設置 コムシスグループ

—継続的なBPR—

コムシスグループ各社の社員が日常の行動において判断に悩んだときの相談・通報窓口として、「コンプライアンス相談窓口」を設置しています。グループ各社の総務部コンプライアンス担当が対応するほか、社外の相談窓口として法律事務所の利用が可能です。寄せられた相談・通報については、コンプライアンス委員会にて社外の有識者から助言や提言をいただくなど、適切なフィードバックに努めています。

公益通報制度を運営 コムシスグループ

—継続的なBPR—

コムシスグループでは、コンプライアンス経営への取り組みを強化するため、2006年4月に「公益通報者保護規程」を制定しています。これは公益通報者保護法と内閣府のガイドラインに基づき、社員や契約社員、嘱託社員、派遣社員からの通報により、組織的または個人的な法令違反行為などの早期発見と是正を図ることを目的とし、公益通報制度を適正に運営するためのものです。

リスクマネジメント

リスクマネジメントの方針 コムシスグループ

—継続的なBPR—

企業活動は、さまざまな外部および内部的発生要因により大きな影響を受けることが想定されます。グループの経営ビジョン実現に向けた経営活動を持続的に発展させるためには、グループを取り巻くリスクを的確に管理していくことが求められます。そのため、日頃から事業活動に付随するリスクを適切に把握し、危機発生回避と万一の場合の事前準備を社会的責任の一つとして受け止め、リスクマネジメントに取り組んでいます。

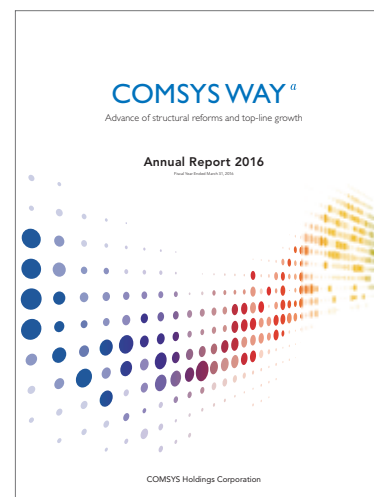
■ 株主・投資家との対話

IR情報の適正・適切な開示

タイムリーな情報開示を実施 コムシスホールディングス

—継続的なBPR—

コムシスホールディングスでは、株主・投資家の皆さまに対して透明性の高い情報開示を行っています。Webサイトでは、IRライブラリー、IRスケジュール、財務情報、月次情報などのIRに不可欠な情報をタイムリーに更新しているほか、半期ごとに社長メッセージやトピックスなどを掲載しています。IRライブラリーでは、「決算短信」「有価証券報告書」「事業報告書」「アニュアルレポート」などの各種資料のPDFファイルを、いつでも自由にダウンロードしてご覧いただくことができます。また、お問い合わせの多い質問にはFAQコーナーで一括してお答えするなど、投資家の皆さまがお求めになる情報を分かりやすく開示することに努めています。



Annual Report 2016



コムシスだより（期末）

開かれた株主総会の開催

第12回定時株主総会を開催 コムシスホールディングス

—継続的なBPR—

2015年6月26日、東京・品川区のコムシスホールディングス本社ビルにて「第12回定時株主総会」を開催しました。

より多くの株主の皆さまが、株主総会における議案を十分に審議し、出席していただけるように、招集通知の早期発送および議決権電子行使プラットフォームを利用し議決権の電子行使を可能にするなど環境を整備しています。

また、招集通知については、発送前に東京証券取引所と当社ホームページに掲載して公開しています。

さらに、この株主総会での決議結果についても、当社ホームページに掲載して公開しています。

投資家向けイベントの実施

年2回の決算説明会を開催 コムシスホールディングス

—継続的なBPR—

機関投資家の皆さまに向けて、コムシスホールディングスの経営方針や財務状況を理解していただけるよう、毎年2回、5月と11月に決算説明会を開催しています。

2015年度の決算説明会では、いずれも約40名のアナリストや機関投資家の皆さまにご参加いただきました。



決算説明会の様子

海外IRを実施 コムシスホールディングス

—継続的なBPR—

コムシスホールディングスでは、株式の18%程度を保有する外国の機関投資家を変重要なステークホルダーとして位置づけています。

2015年度においては3度の海外IRを行い、機関投資家からは、足元の決算状況、モバイル関連の受注状況、M&Aや成長分野への進出、さらには株主還元を含む資本政策など多岐にわたる質問が寄せられました。



海外IRの様子

個人投資家向けIR説明会を開催 コムシスホールディングス

—継続的なBPR—

コムシスホールディングスでは、2016年3月22日に個人投資家向けIR説明会を開催しました。

当日は約30名の方にご参加いただき、コムシスホールディングスの事業・会社の状況・株主還元などについて説明し、参加者の方からもご質問をいただきました。

今後も個人投資家との対話を継続し、会社への理解を深めていただけるよう活動していきます。



個人投資家向けIR説明会の様子

安心・安全の追求

安定した事業活動、安心・安全な労働環境を目指して

安心・安全・衛生に配慮した労働環境と、安定した事業活動を目指し、さまざまな取り組みを行っています。

基本的な考え方

労働安全や衛生面では、社員はもとより、協力会社の皆さんを含めた現場スタッフのスキルや仕事に対する意識、モチベーションの高さなどが大きく影響します。コムシスグループでは、「現場の視点」を尊重し、これに取り組んでいます。また安定した事業活動を維持するため、BCP（事業継続計画）やリスクマネジメントに配慮しています。

■ 事業継続

BCP（事業継続計画）

事業継続計画に関する取り組み

日本コムシス

つうけん

— 継続的なBPR —

日本コムシスでは、2012年から首都直下地震を想定した事業継続シミュレーションを行うとともに各エリアにも同様に事業継続シミュレーションを行い、帰宅困難社員に対する支援および事業継続のための災害対策要員も含めた兵站を準備しています。

行政方針を参考に帰宅困難者および事業継続のため、兵站を3カ年計画で3日分の非常食を準備。2015年度からは3日分の非常食を5カ年計画で順次更改することとし、各支店および前線基地である各TS（テクノステーション）にも配備しています。



災害時に備えて非常食を備蓄

また、兵站の配備充実に加え、支援時の移動に必要な車両燃料についてもエネルギー会社との提携を行い、非常時の体制充実を図っています。さらに、支援に必要な車両についても電気自動車の導入も推進し、夜間には発動発電機として使用するなど、地球環境改善への取り組みを通じたBCPを展開しています。

つうけんでも2016年4月1日から全社員を対象に、NTTドコモ様が提供する「iトピックスプラス」を活用した安否確認システムの運用を開始しました。震度5強以上の地震あるいは生命に危険が及ぶと想定される自然災害などが発生した場合に配信され、社員の安全確保の強化を図ることとしています。

今後も引き続き社員と家族の安心・安全確保に努めていきます。

防災・避難訓練の実施および各拠点へのAEDの配備 コムシスグループ —継続的なBPR—

コムシスグループでは、各社において年に1回、防災・避難訓練を実施しています。また、万一の事態に備え、その場に居合わせた人が自由に使えるよう、各拠点にAED（自動体外式除細動器）を配備しています。

日本コムシスでは、全ビルにおいて年1回、防災・避難訓練を実施しています。2015年5月26日、世田谷事業所にて自衛消防訓練を行いました。約100名が参加し、避難訓練・消火訓練・緊急通報訓練・AED訓練の4つの訓練を行いました。

サンコムでは2015年9月3日、本社ビルにおいて、首都直下地震（震度6強）が発生した場合を想定し、社員安否確認、被害状況確認、衛星携帯電話での各支店の状況確認を行いました。また、備蓄品の確認や、杉並消防署員の指導のもとAEDを使った心肺蘇生体験と救命講習会を実施、併せて、保管している防災用ジャッキにて重量物排除方法の確認も行いました。

さらに同年12月11日には、本社ビルにおいて防災・避難訓練を実施しました。

TOSYSの各事業所においても、年に1回、防災・避難訓練を実施しており、2015年度もそれぞれの地域の消防署にご協力いただき、避難誘導の指導や、消火器・AEDなどの使い方についての指導を受けました。

COMJO、CSSでは2015年9月24日、品川本社ビルにて合同避難訓練を実施しました。

緊急放送設備、避難経路の確認とともに消防訓練を行い、高輪消防署員より消火器および、AEDの使用方法について訓練を受けました。

またお客様作業場所で勤務する社員も含め、COMJOの全社員を対象とした、携帯電話への緊急メール通知による安否確認訓練を実施しました。

このほかつうけんでも、防災・避難訓練を年に1回実施するとともに、関連企業などにAEDの設置もしています。



防災・避難訓練の様子



AED訓練の様子

■ 労働安全衛生

労働安全衛生マネジメントシステム

労働安全衛生マネジメントシステム コムシスグループ —安心安全な業務体制—

事故によって尊い人命が奪われるなどして、ご家族を悲しませることはもちろんのこと、事故が起きたことにより社会やお客様にご迷惑がかかるようなことは決してあってはならないことです。コムシスグループは、情報通信エンジニアリング業界のトップブランドとして、労働安全衛生マネジメントシステムにのっとり、労働安全衛生に関する法令ならびに当社の安全衛生に関する規程を守り、全社員の協力のもと、安全衛生の確保と水準の向上に継続的に努めています。

また、日本コムシスでは、「COHSMS^{※1}」、サンコム、TOSYSでは、「OHSAS18001^{※2}」の認証登録を行い、安全憲章や安全方針を策定していますが、各社とも毎年、「事故撲滅」を最重要経営課題として掲げ、現場の工事などを担当する協力会社とともに、グループ全社を挙げて事故および労働災害の防止に取り組んでいます。

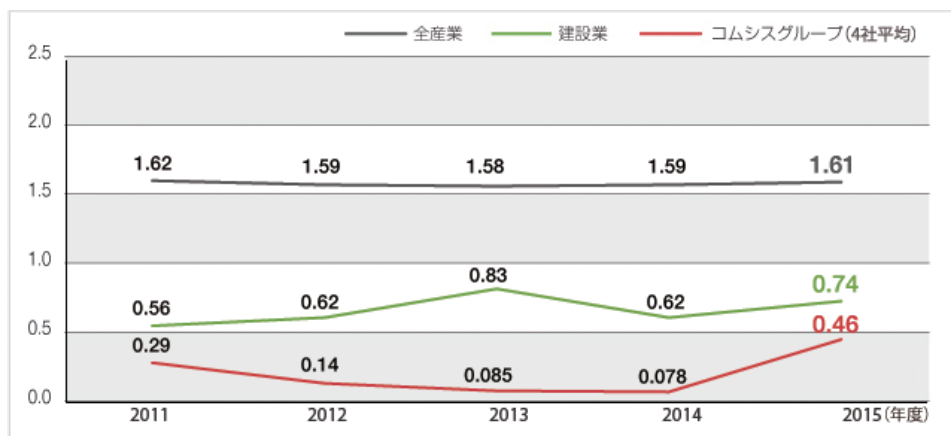
※1 COHSMS (Construction Occupational Health and Safety Management System) : 厚生労働省の「労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針」に基づき、建設業労働災害防止協会が業界の実情を踏まえて作成したPDCAサイクルを通して、自発的に安全衛生水準の継続的向上を図るための建設業向け労働衛生マネジメントシステム。

※2 OHSAS18001 (Occupational Health and Safety Assessment Series) : PDCAサイクルによって組織が労働者および関係者の労働安全と衛生に関するリスクを最小限にし、労働災害を予防していくための労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格。第三者認証機関による認証取得を受けることができます。

労働災害・事故撲滅に向けた取り組み

労働災害発生度数率の推移 コムシスグループ

—安心安全な業務体制—



安全大会の実施 コムシスグループ

—安心安全な業務体制—

「安全はすべてに優先する経営の課題事項であり、経営の要」という意識のもと、各社で安全大会を開催しています。労働安全に対する意識の向上を図るとともに、各社の安全品質向上に向けた改善の取り組み発表ならびに各事業部代表による安全決意表明を行い、最後に参加者全員による「安全唱和」で締めくくり、参加者全員が事故撲滅の決意を新たにしています。また、人身事故防止に向けた危険体感デモ、自然災害や人身事故における被災者のドキュメンタリービデオの視聴などを通じ、安全への意識を高めています。

今後もコムシスグループ一丸となり、事故撲滅に向けて安全品質の仕組みづくりを行っていきます。



日本コムシス安全大会



サンコム安全大会

安全巡視などの実施 コムシスグループ

—安心安全な業務体制—

人身・設備事故撲滅に向けて、コムシスグループ全体で各種取り組みを展開しています。現場で作業する社員などと社長との対話を重視したパトロールを行い、特に高所作業車の使用方法や作業内容について事故防止に向けた具体的な取り組みを確認することで、作業を行う社員一人ひとりの安全に対する意識の向上を図っています。

また、役員が定期的に安全パトロールを実施しています。2015年度、日本コムシスでは19回の役員パトロールを行いました。

トップ安全キャラバンの実施 日本コムシス

—安心安全な業務体制—

日本コムシスでは、安全推進強化期間中の特別施策として社長が各地の現場を視察し、安全講話および現場従事者や協力会社社長との意見交換会を行っています。現場と直接コミュニケーションを行うことで、「1件も事故を起こさない」というトップの強い思いを伝えています。

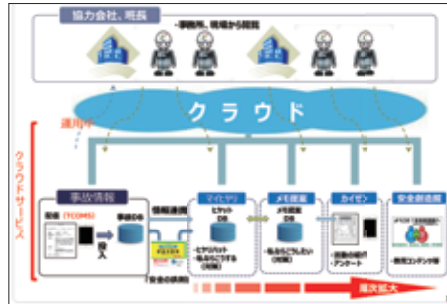


現場視察、意見交換会の様子（八王子事業所）

クラウドサービスを利用した協力会社との情報共有および連携強化 日本コムシス —安心安全な業務体制—

日本コムシスではこれまで、自社・他社の事故情報をメールにて現場代理人に配信し、現場代理人から朝礼などで周知する方法を採用していました。しかし、これでは必要な情報が必要な人に迅速に周知されているかが不明瞭です。そこで、情報配信された現場代理人および協力会社社員・班長の未読・既読が分かり、自社・他社事故および交通事故の発生情報を迅速かつ確実に配信し、類似事故の再発未然防止および注意喚起状況の把握ができるシステム「TCOMS」(Team Comsys Operation & Management System)を導入しました。本システムは、現在約4,000名もの協力会社社員および班長が利用し運用しています。

また、2014年度に業界初の試みとして、Web研修「安全創造館」開設をしましたが、このツールは社内イントラネット上に開設されているため、協力会社社員が利用する場合、コムシス現場事務所にてダウンロードし、CDなどで閲覧および研修を行っているのが現状です。これでは「安全創造館」のコンテンツが追加された際に、協力会社社員にはリアルタイムでの配信ができません。そこで、今後は協力会社社員が知りたいとき、研修したいときに速やかに利用できるよう、「安全創造館」も含めたヒヤリハットDB・事故DBの閲覧およびその他の安全教育コンテンツも利用・体験できるシステムを「TCOMS」として構築し、協力会社との一体運営により信頼されるチームコムシスを目指します。



クラウドサービスを利用した協力会社との連携強化

サンコムの安全に向けた活動 サンコム

サンコムでは、「安全・品質の確保は最大の営業力であり、これを継続することがお客様からの信頼となる」を合い言葉に経営幹部との安全品質向上抜本改善委員会を開催し、プロジェクトの着手前に想定される事故・トラブルの予防や事故防止対策を“安全の先取り”として議論しています。また季節特有の事故防止策などを検証し、現場の安全および品質の向上に努めています。



特別安全強化期間に着用するワッペン

「家族からの手紙」活動 サンコム

サンコムでは、従業員のご家族から勤務しているご主人やお父さんに宛てた「無事に仕事から帰って」といった思いや愛情を手紙に書いていただき、作業員本人が「どんなに家族の方々に愛されているか」を自覚することで、「無事に作業を終え帰宅しなければならない」と心に刻んでもらう活動をしています。



「家族からの手紙」ポスター

一斉メールシステムの導入 つうけん

つうけんでは、2014年度より全国の事故情報と自社の事故情報について、NTTドコモ様の一斉連絡サービス「iトピックスプラス」を利用し、社内各社員・現場施工班へリアルタイムに発信し、情報共有を行っています。これにより、安全作業の意識向上・動機付けを行い、受信状況も確認することで、さらなる指導強化を図っています。

安全衛生教育の実施

安全研修の実施 日本コムシス サンコム

—安心安全な業務体制—

日本コムシスとサンコムの各事業所では、第一線の現場で働く従業員が「絶対に事故を起こさない」という強い意識のもと、危険予知の定着などを目的のためのさまざまな講習を実施しています。

日本コムシスのNTT事業本部では、2015年6月20日に上野事業所において、株式会社タダノ様のご協力をいただき、高所作業車ブラッシュアップ研修を実施しました。タダノ様の指導のもと、18名が危険作業体感講習（踏み抜き講習）を実施し、安全作業の再確認をし、受講者全員が現場での安全作業を誓いました。

サンコムでは、全員の体に染み込むように覚えさせる体験型の研修を全国で実施しています。2015年度は、安全帯ぶら下がり体験、天井踏み抜き体験を主体に実施し、直流電源模擬装置は、全国に配備後、他のグループ会社でも活用され、協力会社を始めとする全作業者の体験訓練を通して、事故撲滅に努めることができました。



高所作業車ブラッシュアップ研修



安全帯ぶら下がり体験

現場マネジメント力向上研修を開催 日本コムシス

—安心安全な業務体制—

日本コムシスでは、2015年9月30日にコムシス港南ビルにおいて、「現場マネジメント力向上研修」を開催しました。

首都圏アクセス・ネットワーク部門の各事業所長をはじめ協力会社幹部が参加し、労働災害がもたらす企業ダメージについて改めて認識するとともに「事業者・労働者・主任技術者の責務」の重要性を再確認しました。

緑十字賞の受賞 つうけん

—安心安全な業務体制—

2015年10月28日、つうけんの神奈川事業部 藤崎薫が中央労働災害防止協会より、「緑十字賞」を受賞し、全国産業安全衛生大会で表彰されました。

この賞は、長年にわたり我が国の産業安全または労働衛生の推進向上に尽くし、顕著な功績が認められる個人、職域グループなどに対して、表彰されるものです。

つうけんは引き続き、産業安全衛生に対し貢献していきます。



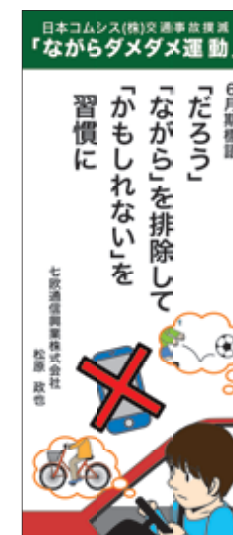
表彰の様子

交通安全への取り組み

交通事故撲滅に向けた取り組み 日本コムシス

—安心安全な業務体制—

日本コムシスでは、ドライブドクターを全車両に導入し、加害交通事故の撲滅に向けて取り組んでいるところですが、残念ながら減少に至っていないのが現状です。最近の加害交通事故を分析してみると、「～しながら」での追突、または交差点での接触事故が目立ちます。そこで2015年度は「ながらダメダメ運動」を展開し、加害交通事故による任意保険の割引率80%に向けて取り組みました。また、JRの運転手が運転中に実施している指差呼称を行いながらの運転を車両にも採り入れた「コメンタリードライブ」を実践するように展開していますが、実践しているかどうかを測るのは困難です。そのため全車両に社内カメラの搭載を推進し、交通事故に至った場合の前方と運転者の行動を分析したり、自らに置き換えて自分を認識させる取り組みも行っています。日本コムシスでは、今年度も安全意識を高め、加害交通事故撲滅に向けた取り組みを継続し続けます。



交通安全への取り組み 日本コムシス サンコム つうけん —安心安全な業務体制—

コムシスグループでは、事業を遂行するために多くの自動車を利用しています。

日本コムシスでは、年に数回、最寄りの警察署などから講師をお招きし、事故事例を交えながらの交通安全講習会を開催しており、参加者は交通事故「ゼロ」への決意を新たにしています。

また、日本コムシス北陸支店では2015年11月9・10・17・19日の4日間で石川県安全運転研修所の外部講師による指導を受け、社員一人ひとりが“自分自身の運転スキルを把握”することでさらなる交通事故防止に取り組みました。

サンコムでは、全国の工事車両を運転する社員を対象に全国交通安全講習を行い、交通事故予防運転の教育を行っています。さらに地域の警察署から講師をお招きして交通安全講習会を開催し、地域の交通安全を誓っています。

また、従業員のご家族（お子様）から「交通事故防止」の思いを画用紙に描いていただき、交通事故防止を訴え、「無事に毎日、家に帰ってほしい」との願いを込めてお父さんに届くよう交通安全ポスターにして、交通安全意識の高揚と交通事故防止に大きな成果を上げています。

つうけんでは、交通事故防止へ向けた危険運転回避などを目的に、社有車両200台にドライブレコーダーを導入しています。ドライブドクターは安全運転講習の教材などにも使用し、安全運転意識の向上に努めています。



衝突（追突）体験の様子



従業員の家族が描いた交通安全ポスター

■ リスクマネジメント

情報セキュリティ

e-ラーニングなどで情報保護に関する教育を強化 コムシスグループ —安心安全な業務体制—

コムシスグループでは、個人情報を含む企業情報の漏えい事故防止のための社員教育にも注力しています。e-ラーニングでは情報セキュリティの基礎知識や要員としての責務を学び、社員各自がそれぞれの理解度を確認しながらスキルアップを図っています。

コムシスグループ各社の e-ラーニング受講修了率

	2013 年度	2014 年度	2015 年度
日本コムシス	98.9%	99.5%	98.1%
サンコム	97.0%	99.7%	100%
COMJO	100%	100%	100%
CSS	100%	100%	100%

個人情報保護とコンプライアンスに関する教育 コムシスグループ —安心安全な業務体制—

近年、現場を取り巻く環境において、法令遵守はもとよりマナーやモラルについても高いレベルが要求されています。

日本コムシスでは、新入社員研修および各階層の研修において、コンプライアンスの事例やクイズを交えた講義により、意識の醸成を図っています。

サンコムでは、情報セキュリティ研修を社員およびパートナー会社を対象に年2回実施し、情報保護への強い意識の継続を繰り返し教育で実施しています。2015年度は全国で2,068名が受講し、「情報セキュリティインシデント」の発生によるお客様や社会に与える影響度について研修DVDを活用し、情報取り扱いの大切さに対する理解を深めています。最後は理解度テストにて情報保護徹底の確認をしています。

TOSYSでは、毎年個人情報保護・コンプライアンスについて全従業員を対象に研修を行っています。

つうけんでは、社員およびグループ会社社員を対象として、年1回情報保護に関

する教育を実施し、個人情報管理の重要性および社員個々人のモラル・意識向上の醸成を図ることにより、個人情報の漏えい・紛失などの事故防止に向けて取り組んでいます。

2015年度も身近な話題の事例を挙げ、日常業務におけるルールに重点を置き実施しました。企業としての社会的責任の重要性を浸透させるとともに、従業員が自発的に取り組むような企業風土づくりを展開しています。

プライバシーマーク制度の認定についても、2016年度は6回目の更新を行う予定であり、情報保護について取り組みを継続して実施しています。

CSSでも毎年、個人情報保護について全従業員を対象に研修を行っています。プライバシーマーク制度の認定は過去に4回の更新を行っており、情報保護の取り組みを継続して実施しています。

お客様情報の漏えい防止をシステム化 コムシスグループ —安心安全な業務体制—

コムシスグループでは、お預かりしているお客様情報の漏えい防止策の一環として、「セキュリティのシステム化」や「セキュリティパトロール」を通じ、職場から家庭までを含めた対策を実施しています。「セキュリティのシステム化」のツールとしては「COM.PASSカード」を導入して、業務で使用するすべてのPCの起動制御やファイルの暗号化、オペレーションの履歴取得を行うなどのセキュリティ対策の強化に取り組んでいます。

情報セキュリティの点検を実施 COMJO —安心安全な業務体制—

COMJOでは、お客様から信頼されるパートナーであり続けるため、情報セキュリティの現場点検を実施しています。情報セキュリティ委員がお客様の各現場まで出向き、守るべきルールと遵守状況などを点検しています。

■ サプライチェーンへの配慮

調達の基本方針

コムシスグループ各社では、それぞれの業態に合わせて資材や役務などに関する調達のための基本方針を策定しています。法令遵守のもと、方針に沿って、オープンでフェアなお取引を通じて信頼関係の構築に努めています。

日本コムシスにおける調達の基本方針 日本コムシス

—継続的なBPR—

▶ 公平・公正な取引

お取引先選定は、資材・役務の品質・信頼性・納期・価格ならびにお取引先の経営安定性などを総合的に評価して公平・公正に行います。

▶ 法令・社会規範の遵守

法令・社会規範および社内規程を遵守し、健全で公正な調達を行い不正な行為には加担しません。

▶ 品質の確保

当社の「品質方針」に沿って品質と安全を優先し、さらにコストについても重視します。

▶ お取引先との良好なパートナーシップの構築

相互信頼関係に基づき、お互いの技術力の向上を図るとともに、良好なパートナーシップの構築に努めます。業務上の立場を利用した収賄、強制横領を行いません。

▶ 機密情報の保護

取引を通じて知り得た機密情報は、お取引先の承諾なしに第三者に開示いたしません。

2015年度活動報告

ステークホルダーのさまざまな期待に応え、ともに社会的価値を創造していくための施策

品質向上と環境への配慮

お客様視点を踏まえたサービス品質の向上、地球環境課題の解決に向けて

「コムシスブランド」の維持・向上と、環境負荷低減を目指した事業活動、社会貢献活動に取り組んでいます。

基本的な考え方

協会社と一体となり、安心・安全で質の高い「社会基盤を支えるコムシスブランドの品質」を提供し続けます。また、「事業を通じた企業価値の創出」が可能となる新たな分野として、太陽光発電システムなどの環境配慮技術を駆使し、情報通信と並ぶ重要な社会インフラとして、省エネや温室効果ガスの低減に取り組んでいます。

■ 品質へのこだわり

品質保証の基盤としての品質マネジメントシステム

品質マネジメントシステム「ISO9001」

コムシスグループ

ー品質へのこだわりー

「お客様に信頼され、21世紀に向けての積極的な事業展開に寄与し、豊かな高度情報化社会の発展に貢献する」ことを目的として、日本コムシスの海外本部、総合システム本部、本社NTT部門の3本部が1997年、最初に品質マネジメントシステム「ISO9001」の認証を取得しました。

その後、日本コムシス、サンコム、TOSYS、つうけん、COMJO各社においても「ISO9001」の認証を取得しました。品質マネジメントシステムの継続的改善に向けPDCA（Plan→Do→Check→Act）サイクルを基本に、システムの効果的な運用、お客様要求事項および法令・規制要求事項への適合の保証を通して、お客様満足の向上を目指しています。

日本コムシスにおいては、PDCAサイクルのP（計画）は、ISO「品質方針」に基づいて安全品質管理本部が作成した「年度品質目標・計画表」により活動を展開しています。品質目標は、設計不備率、写真検査欠点強度率、施工成績点などの具体的数値を「品質管理指標」として設定しています。D（実行）においては、施工実施、班長認定、写真検査などの標準化された業務を、文書化した手順に従い実施します。これらの実施状況はC（チェック）である内部監査において確認し、内部監査のマンネリ・形骸化を打破するために、セルフチェックによる課題の抽出、監査チェックシートの見直しなど、適合性から有効性に着目した内部監査に変更し活性化を図っています。内部監査、セルフチェック、外部審査などのC（チェック）の結果・分析をマネジメントレビューやISO委員会などによりA（施策）に展開し、継続的改善とシステムの有効性向上を目指しています。



上）登録証付属書
下）登録証

ISO9001 取得状況（2016 年 3 月末現在）

	取得年月
日本コムシス	1997 年 12 月
サンコム	1998 年 5 月
TOSYS	1999 年 3 月
つうけん	1998 年 9 月
COMJO	1997 年 12 月

安全品質向上のための改善活動

改善活動への取り組み

日本コムシス

CSS

—品質へのこだわり—

日本コムシスでは、現場を中心に共通系業務でも改善活動を進めており、良い提案を広く社内に展開することで業務改善効果を上げることが目的としています。経営層が掲げる改革施策と現場の改善活動が両輪となることで強い現場をつくり、企業競争力の向上を目指します。

CSSでは、2007年以降、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の徹底、ムリ・ムダ・ムラの排除、処理時間の短縮や業務精度向上などに着目したカイゼン活動を継続しています。2015年度は、20チーム、120名が参加し、毎月の活動進捗報告、年2回の活動発表会を実施しました。全社の情報を共有することで、各拠点での水平展開が実現されています。この活動を通して、事務処理作業の効率化・標準化を推進し、その結果をSOP（業務処理標準手順書）にまとめ、多能工化を実現するとともにグループ内共通業務の集約化を進めています。

メモ提案

日本コムシス

—品質へのこだわり—

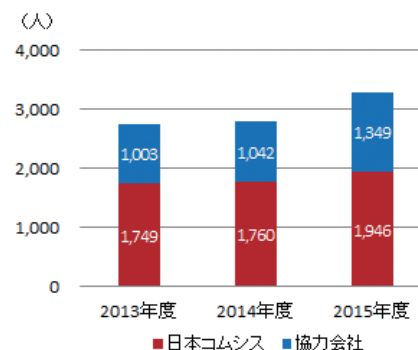
メモ提案とは、現場の社員が自分の職場を良くするために仕事のやり方に創意工夫をし、その結果を提案するもので、日本コムシスで40年以上続いている社内制度です。メモ提案は1年中受け付けており、協力会社も参加しています。

2013年7月からは、これまでに集まった約30,000件の提案に、より良いアイデアを加えて提案する「まねっこ提案制度」を開始しました。自分が過去に提案した内容をブラッシュアップして再提案したり、他の社員が出したアイデアに各

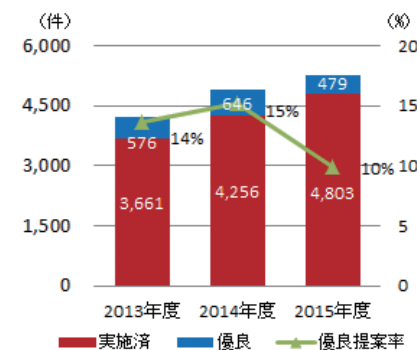
現場での創意工夫をプラスして提案したりすることで、さらに良いやり方を模索していこうというものです。また、各提案にコメントを入れる仕組みを導入し、普段は直接顔を合わせる事のない現場社員の意見を集めることが可能になりました。こうした試行錯誤により参加人数が増加し、提案の質も向上しています。

さらに、社員から出た良いアイデアは事業部だけで終わらせるのではなく、社内のWebサイトでの公開、試作品の配布などを行い、全社へ水平展開を行っています。

社員など参加状況の推移



実施済・優良提案数の推移



QC（Quality Control）活動

日本コムシス

—品質へのこだわり—

日本コムシスでは、職場の課題をチームで解決する取り組みとして、「QC（Quality Control）活動」を実施しています。

チーム構成は、コムシス社員チーム・コムシス社員＋協力会社社員チーム・協力会社社員チームとさまざまです。2015年度は、コムシス社員＋協力会社社員チームが増え現場改善活動がさらに活性化しています。

また、活動成果を共有し他部門への展開を図ることを目的として、全国改善活動発表会を年1回実施しています。大会は、TV会議やインターネット配信も利用し、会場参加できない方々にも参加機会を提供しています。

さらに、大会発表が活動目的にならないよう、年間を通じての活動や、翌年大会での成果発表にも取り組んでいます。

全国改善活動発表会を開催 日本コムシス TOSYS 一品質へのこだわり

日本コムシスでは、2015年10月29日、大崎ビル会議室において全国改善活動発表会を開催しました。

会場には社員および協力会社社員200名と各支店からのTV会議参加者やNTTグループ各社様より来賓をお迎えし、地方大会・事業本部大会で選抜された11チームと昨年度の優秀3チームが日頃の改善活動の成果を発表しました。

TOSYSでは、2016年1月18日、各拠点をTV会議システムで結び、TOSYSグループ小集団活動発表会を行いました。

2015年9月から班ごとにテーマを選定し、12月には各グループ内での発表会を行い、代表となった10チームが発表を行いました。

活動は基本全員参加で行われ、グループ内の参加チームは153班、参加人数は1,027名に上りました。



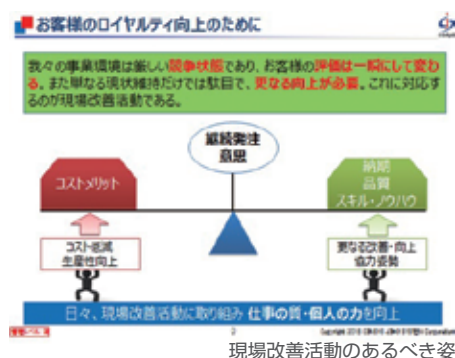
日本コムシス全国改善活動発表会2015



TOSYSグループ小集団活動発表会

COMJO現場改善活動への取り組み COMJO 一品質へのこだわり

COMJOでは現場改善活動に取り組んでおり、2015年度は全社への現場改善活動展開を目標に、成果の横展開、日々の改善活動を継続しました。70グループ、307名が参加し、働きがいがある、明るく楽しい現場に変革すべく活動しました。



2016年度は現場改善活動の定着を目標に、個の力・現場力の向上に取り組み、お客様に選ばれ続ける企業を目指します。

技術賞およびSKY選奨を受賞 日本コムシス TOSYS つうけん 一品質へのこだわり

2015年6月9日に開催された「情報通信エンジニアリング協会(ITEA)第58回通常総会」において、第33回技術賞、第28回SKY(創造・改善・躍動)選奨の受賞式が行われ、日本コムシス、TOSYS、つうけんの社員が出席しました。

技術賞は情報通信設備工事の品質向上に対する寄与が評価され、SKY選奨は、SKY・VE提案とその実践による現場の士気高揚に対して贈られます。



第33回技術賞および第28回SKY選奨の受賞式にて (TOSYS)

日本コムシスは技術賞1名、SKY選奨5名、TOSYSは技術賞1名、SKY選奨1名、つうけんは技術賞1名、SKY選奨を5名が受賞しました。

品質向上のための技術開発

IT武装化(タブレット端末の活用) 日本コムシス サンコム 一品質へのこだわり

コムシスグループでは、通信建設工事の効率性、安全性および品質の向上を図るために、ワークフロー(作業工程)の統一と現場IT化を推進した「施工ITプラットフォーム」の構築を行っています。

現在、日本コムシスが手がけるNTTアクセス工事にはUSSS(ユースリーエス)・ASSS(エースリーエス)、NTTネットワーク工事にはNCPC(エヌシーピーシー)、NTTモバイル工事にはDarwinMobile(ダーウィンモバイル)、そしてサンコムが手がけるNCC工事(New Common Carrier、NTT以外の通信工事)においてはSunMOS(サンモス)というシステムを構築し運用しています。

これらのシステムは主にタブレット端末をツールとして活用し、端末の画面に呼び出したワークフローに沿って現場作業を行います。タブレット端末は1日の現場作業と常に連動し、朝のミーティングから現場作業の撮影、さらには工程管理までを本社のサーバーによって、リアルタイムで点検、承認することが可能です。

今後は、NTT工事・NCC工事以外のITソリューション関連工事、社会システム関連工事への導入を図るとともに、さらに次のステップでは通信建設工事以外の建設工事にも展開していく予定です。



NCPC1台でネットワーク系の各種作業をサポート



NTTモバイル工事でのDarwin Mobileの利用イメージ



SunMOSにより現場状況を撮影

全数写真検査 日本コムシス つうけん

一品質へのこだわり

日本コムシスでは、作業効率と品質の向上を目的とし、「全数写真検査」を実施しています。

つうけんの写真検査システムは、設計、施工、施工管理、施工班の役割を明確にし、業務をSCM（サプライ・チェーン・マネジメント＝供給連鎖管理）的に管理する「プロセス管理システム」に「写真検査システム」を連動させたシステムとなっています。

設計で設備番号単位に工程集計した設計データを、施工管理が施工班の割り付け・施工指示に活用しています。作業班は撮影指示情報（場所、撮影パターンなど）を受信し、指示情報をもとに撮影することで撮影漏れがなく、撮影後の編集稼働も一切ありません。また、撮影後の写真を施工管理が確認することで、施工品質の向上、完成図の精度向上につなげています。

写真検査では、写真検査員を品質保証センタに集約することで、検査員の稼働、検査スキルの標準化および品質向上を図っています。また、社内システムに開設

した「写真検査フォーラム」では、現場からの質問、意見提起、改善提案などへの回答、写真検査の写真撮影方法などを公開し、社内およびつうけんグループ関係者全員が閲覧できるよう情報共有を図っています。

作業標準書の運用 サンコム

一品質へのこだわり

サンコムが所有する、NCC（New Common Carrier）工事に関する各種技術ならびに安全資料の有効活用と次世代への継承を目的として、「最重要作業標準書」「サンコム安全・技術標準書」「サンコム技術ライブラリー」という3つのカテゴリーに分類した「サンコム技術安全標準」を定めています。

サンコム社員およびパートナー会社全員が絶対に守らなければならないものを「最重要作業標準書」とし、カテゴリーの頂点に定めています。



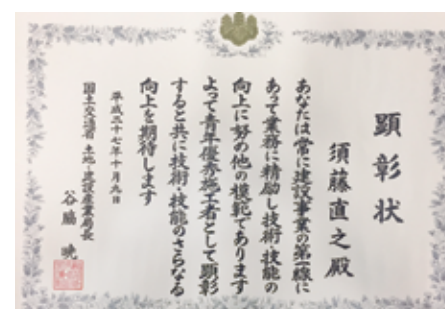
作業標準書

青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰を受賞 サンコム

一品質へのこだわり

2015年10月9日、サンコムの須藤直之技術課長が「青年優秀施工者」に選ばれ、「建設ジュニアマスター」の称号を授与されました。

全国で110名が青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰（電気通信建設業からは4名）された中での受賞となります。なお、2006年には茂木賢仁部長が「建設マスター」の称号を得ています。



顕彰状



受賞した須藤直之技術課長

■ お客様満足度向上に向けた取り組み

お客様とのコミュニケーション

各種フォーラムへの出展

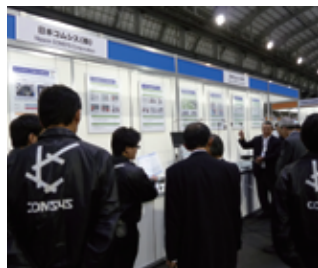
●つくばフォーラム2015 **日本コムシス** **TOSYS** **つうけん** —品質へのこだわり—

2015年10月15～16日の2日間にわたり、NTTアクセスサービスシステム研究所およびつくば国際会議場において、「NetroSphere構想を支え、進化するアクセスネットワーク」をテーマに「つくばフォーラム2015」が開催されました。

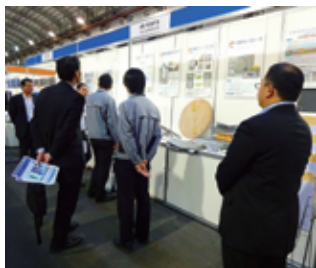
日本コムシスでは、「メタル回線非接触対照器（MK- α ）」「ハンドホール網蓋」など、11件のさまざまなデモンストレーションや展示を行いました。

TOSYSからは、「ガス監視システムの雷害対策方法の改善」「共用FA管へのSUDターミナルボックス取り付け方法の考案」などのほか、川中島建設の「DKボンド工法」など計8点について展示・紹介し、来場者からの専門的な質問にも対応し、ご好評をいただきました。

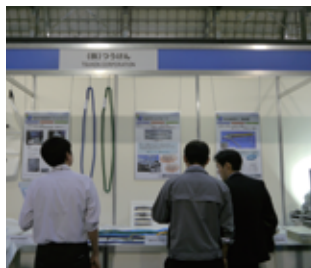
つうけんからは、「安全装置（フェールセーフ機能）付き張線器のコスト改善品」など3点を出展しました。



日本コムシスブースの様子



TOSYSブースの様子



つうけんブースの様子

●西日本ICTフォーラム2015 **日本コムシス**

—品質へのこだわり—

2015年9月8～9日の2日間にわたり、大阪市中央区のマイドームおおさかにおいて「西日本ICTフォーラム2015」が開催されました。

日本コムシスは「緊急速報『エリアメール』対応警報装置」などを紹介しました。



西日本ICTフォーラムの様子

協力会社との取り組み

パートナー会社社長連絡会・協力会社連絡会を開催 **日本コムシス** —継続的なBPR—

日本コムシスでは、2015年7月15日にドコモ事業本部およびITビジネス事業本部、7月21日にNTT事業本部および社会基盤事業本部がパートナー会社社長連絡会を開催し、各事業や日本コムシスの動向について説明を行うとともに、パートナー会社の皆さまと今後のさらなる連帯強化に向けて意見交換を行いました。



パートナー会社社長連絡会の様子

また同年5月27日には、ドコモ事業本部にて協力会社連絡会を開催し、参加者全員で大きな目標に向かう決意と団結力を深めました。

■ 地球環境への配慮

太陽光発電システム導入の取り組み

自社ビルに太陽光発電システムを導入 **日本コムシス** **サンコム** **TOSYS** —品質へのこだわり—

オフィスでも実現可能な環境保全の取り組みとして、コムシスグループの拠点に太陽光発電システムを導入し、得られたエネルギーをオフィスで利用しています。2015年度はコムシスグループで約104t-CO₂のCO₂排出量削減効果を実現しました。

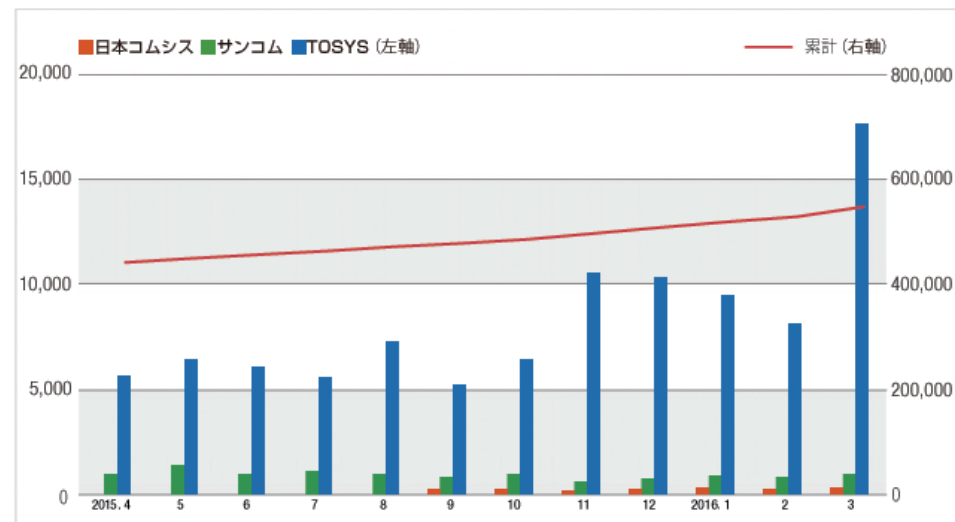


TOSYS本社綿内ビルに並ぶ太陽光パネル

	設置場所	最大出力
日本コムシス	コムシス大宮ビル	5kW
	世田谷 TS (テクノステーション)	10kW
サンコム	本社ビル	10kW
TOSYS	本社綿内ビル	50kW

さらに、日本コムシスのコムシス平林ビルとサンコムの東海支店ビル、TOSYSの新潟的場ビル、東信事業所ビル、トーシス新潟本社ビル、コムシスクリエイトが事業主となり屋上に太陽光発電設備を設置し、全量買取制度により電力会社へ売電しています。

発電量の推移 (kWh)



コムシスグループのマテリアルバランス

INPUT

電気※ ¹	16,318,983 kWh	LPG.....	11,419 kg
うちグリーン電力	160,000 kWh	灯油	47,159 ℓ
電気(自社太陽光発電)	113,051 kWh	ガソリン※ ³	2,140,065 ℓ
水※ ²	74,535 m ³	軽油※ ³	658,965 ℓ
都市ガス	181,151 m ³		

コムシスグループの事業活動

OUTPUT

直接排出		間接排出	
オフィス	二酸化炭素 …………… 673t-CO ₂	+ オフィス	二酸化炭素 …… 8,174t-CO ₂
	メタン …………… 979.35kg-CH ₄		
	一酸化二窒素 … 54.3957kg-N ₂ O		
自動車	二酸化炭素 …………… 7,033t-CO ₂		グリーン電力による削減効果 二酸化炭素 …………… 104t-CO ₂
合計排出量 …………… 15,815t-CO ₂			
メタン、一酸化二窒素は二酸化炭素換算しています			
産業廃棄物 …………… 52,032t			
がれき、アスファルト・コンクリート破片、廃プラスチック類 ガラス・陶器くず、木くず、紙くず、汚泥、混合物			

対象：コムシスグループ各事業会社の本社ビル、支店ビル、一部のTS (テクノステーション)

※1：個別メーターがないフロアでは面積案分値を使用しています

※2：入居ビル賃料に使用量が含まれる場合は対象外としています

※3：各社のリース車両による燃料使用量を対象としています

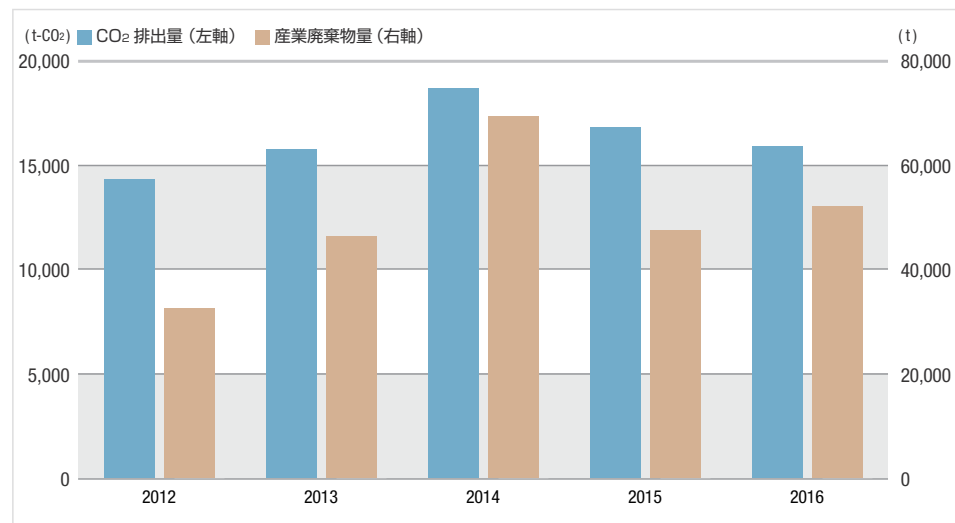
温室効果ガスの削減に向けた取り組み コムシスグループ 一品質へのこだわり

CO₂ 排出量の削減には太陽光発電システムの構築といった環境対応型の事業や製品を通じた方法もありますが、コムシスグループでは「ISO14001」を活用した環境マネジメントシステムを運用しながら、CO₂ 排出量の削減をはじめとする環境負荷の低減にも取り組んでいます。

コムシスグループの事業は「エンジニアリング事業」と「ICTソリューション」に分けられますが、業務の徹底的な効率化を図る全社的な「カイゼン」の取り組みにより、CO₂ 排出量の継続的な削減が図られています。作業現場では、工事作業車などのエコドライブの徹底や省エネ効果の高い作業機材の使用を通じて、また、各オフィス・作業所では節電対策など（太陽光発電システムの導入を含む）を通じて削減を図っています。

さらに、社員がボランティア参加して植林を行う「コムシスの森づくり」などを通じ、生物多様性を含む地球環境の保全に関する理解を深める活動なども続けています。

グループ全体のCO₂ 排出量と産業廃棄物量の推移 コムシスグループ 一品質へのこだわり



オフィスその他における取り組み

タブレット端末によるペーパーレス化 日本コムシス サンコム COMJO CSS 一品質へのこだわり

日本コムシス、サンコム、COMJO、CSSでは、タブレット端末を利用した高セキュリティの会議システムを社内で構築し、自社の経営会議などで運用しています。会議体改革とペーパーレス化を実現した新しいワークスタイルで、さらなる効率化とオフィスの省資源化を目指しています。

消費電力の「見える化」 サンコム 一品質へのこだわり

サンコムでは、本社ビルに電力量デマンド監視装置を導入しています。各階にモニターを設置して消費電力を「見える化」し、制限電力量を超えると空調設備が自動的に出力を制御する仕組みとなっています。

グリーン電力の購入 日本コムシス 一品質へのこだわり

日本コムシスは、日本自然エネルギー株式会社が提供する「グリーン電力証書システム※」を採用しています。2015年度は本社において年間合計16万kWhのグリーン電力を購入しました。これは本社の年間電力使用量の約8.04%に相当します。

※グリーン電力証書システム：間接的なCO₂ 排出量削減効果を持つ自然エネルギーの「環境付加価値」を、自然エネルギー発電事業者が第三者機関の認証により「グリーン電力証書」という形で発行。証書を購入した企業の電力使用量のうち、購入相当量が自然エネルギーによるものとみなされ、その費用は自然エネルギーの普及に役立てられます。



グリーン電力証書

資源の有効活用に関する取り組み

工事現場におけるリサイクル用品の活用 日本コムシス

—品質へのこだわり—

日本コムシスでは、「ISO14001」の活動プログラムの一つとして、所内系全現場で工事残材・事務所内廃棄物を分別処理することにより、リサイクル資源の保護に貢献しています。

グリーン購入の推進 日本コムシス COMJO

—品質へのこだわり—

日本コムシス、COMJOでは、環境への負荷を考慮して事務消耗品におけるグリーン購入を推進しています。

グリーン購入率

	2013年度	2014年度	2015年度
日本コムシス	83.2%	80.5%	79.8%
COMJO	79.1%	92.5%	96.4%

環境保全について考える取り組み

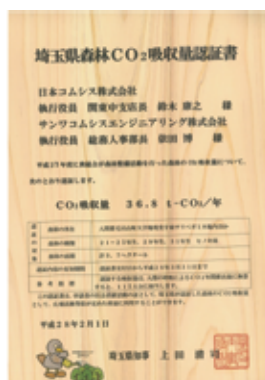
環境保護と生物多様性の維持に関する取り組み

コムシスグループの森づくり コムシスグループ

—品質へのこだわり—

本コムシス、サンコム、COMJO、CSSでは、コムシス森林サポーターとしての活動を実施しています。2015年度は、埼玉県毛呂山町大谷木字鶯谷地内などでの3.7ヘクタールに及ぶ枝打ちや間伐などによる森林保全活動の実績により、同制度において36.8t-CO₂/年のCO₂吸収効果が認められ、日本コムシスとサンコムに対し、埼玉県知事より「埼玉県森林CO₂吸収量認証書」を交付いただきました。36.8t-CO₂/年のCO₂吸収量は、115人分の呼吸による年間CO₂排出量に相当します。

TOSYSでは、2015年5月に毎年恒例となっている「TOSYSの森林」整備作業を行いました。



2015年度埼玉県森林CO₂吸収量
認証書

当日は、社長をはじめとして新潟・長野県内からTOSYSグループ社員約100名が参加し、鎌やのこぎりを手に下草刈りや倒木の処理、傷んだ歩道や林道の整備などを手際良く行いました。

また、つうけんでは、自然保護の観点から北海道紋別郡の森林の「緑のオーナー」となっています。

北海道森林管理局主体による国有林の保護事業への一環として約5.75ヘクタールのオーナーとして登録し自然保護へ貢献しています。

こうした森林整備活動の積み重ねにより社員の自然環境保全に対する意識が向上しています。今後も、自然環境保全に少しでも役立てるよう継続して活動を行っていきます。



コムシス森林サポーター



TOSYSの森林整備作業

埼玉県森林づくり協定締結 日本コムシス サンコム

—品質へのこだわり—

コムシスグループ森林サポーターは、2011年から埼玉県、埼玉県農林公社と「埼玉県森林づくり協定」を締結しており、2016年4月1日～2021年3月31日まで新たに契約を締結しました。

今後も森林の日当たりを良くし樹木の成長を促す「枝打ち」などを定期的に行い、地元の人々との連携を深めながら、環境保護に取り組んでいきます。



埼玉県森林づくり協定書

「グリーンカーテン」植栽 TOSYS

—品質へのこだわり—

TOSYSの新潟ビルでは毎年、社員主導による「グリーンカーテン」の植栽を行っており、2015年度も約20名の有志によって手入れを行いました。

植物は順調に育ち1階の窓を覆い、夏の暑い日差による室内温度上昇の抑制に一役買いました。

2015年度活動報告

ステークホルダーのさまざまな期待に応え、ともに社会的価値を創造していくための施策

人 財

働きやすさへの配慮、モチベーションの向上、パフォーマンスの発揮

「人こそ宝」という考えから、働きやすい職場づくりや「人財」育成に注力します。

基本的な考え方

「人こそ宝」という考え方を中心に据え、人権の尊重を含めた働きやすい職場づくり、技術・知識の向上など、高品質なサービスを維持・強化するための「人財」育成、経営陣を含めたコミュニケーションの強化、ダイバーシティの推進などに取り組んでいます。

■ 人権の尊重

人権の尊重に関する取り組み

人権教育 コムシスグループ

—継続的なBPR—

コムシスグループでは基本的人権を尊重し、性別・年齢・人種・出身・宗教・障がいの有無などを理由として、業務を進める上で差別をしないことを基本倫理としています。

また、人権に対する意識を社員に浸透させるため、階層別研修などで人権教育に取り組んでいます。

ハラスメント対策 コムシスグループ

—継続的なBPR—

コムシスグループでは健全な職場環境を実現するため、パワーハラスメントやセクシャルハラスメントに関する研修を実施しています。また、相談窓口を設置し、早期発見と相談者への対応を行っています。

「悩み110番相談窓口」の設置 日本コムシス

—継続的なBPR—

日本コムシスの「悩み110番相談窓口」では、仕事や職場に関する相談を受け付けています。窓口の担当者以外には相談者の属性や相談内容を非公開にして相談者のプライバシーを厳重に保護し、相談者が不当な扱いを受けないよう配慮しています。

■ 健康管理

メンタルヘルス・マネジメントの強化

メンタルヘルス研修の実施 コムシスグループ

—人づくり—

コムシスグループでは、職場のメンタルヘルス強化の取り組みとして、職場内でのメンタルヘルスの現状やストレスと上手に付き合う方法について毎年メンタルヘルス研修を行い、ストレスケア、同僚・部下の異変に気づく方法などの健康サポートを行っています。また、社員からの心の悩みなどに関する相談は、専門家によるカウンセリングを電話や面談を通じたフォロー体制により実施し、健康管理に努めています。

メンタルヘルスチェックの実施 日本コムシス COMJO CSS —人づくり—

近年、メンタル不調による休職者およびメンタル不調予備軍が年々増加の傾向にあります。

日本コムシスとCOMJOでは、2013年より、ストレスチェックを実施しています。このチェックシステムは、本人がWebサイトで134項目の質問票に答えることによって診断表が出され、診断表に記載されている自身のメンタル状態を客観的に段階別で把握できるようになっています。高ストレス者へは、ストレスチェック実施者（産業医）よりフォローメールを送信し、面談を促しています。またセルフケアとして、e-ラーニングの実施やカウンセリングの受診によって改善を図るシステムになっています。また、診断結果が良好な社員にとっても、e-ラーニングやカウンセリング受診は有効であり、現在の状況を客観的に把握し健康状態を保つことで、本人の活性化に役立てることができると考えています。

CSSでは、2016年3月より従業員に対して、労働安全衛生法第66条の10に定める「心理的な負担の程度を把握するための検査等」（ストレスチェック）の規定にのっとり、当社指定の産業医によるカウンセリング、外部Webシステムを活用したセルフチェックを実施しています。

これにより、従業員のストレスの程度を従業員自身に気づかせることを促すほか、働きやすい職場づくりを進めることで、従業員のメンタルヘルスの阻害を未然に防止（一次予防）することができます。

■ 社員のレベルアップ

研修プログラムの充実

階層別研修の実施 コムシスグループ

—人づくり—

コムシスグループでは、キャリアアップを目的として階層別研修を実施しています。新規採用者基礎研修（グループで111名）や、入社から1年後のフォローアップ研修（グループで92名）、若手社員の3年目のフォローアップ研修（グループで42名）、また、中堅社員や管理者を対象とした研修など、各ステップアップ時にさまざまな研修を実施しています。



新規採用者基礎研修の様子



フォローアップ研修（3年目）の様子

新任管理職・評価者研修の開催 コムシスグループ

—人づくり—

日本コムシスでは、2015年度に新任管理職として昇格した社員を対象に、新任管理職・評価者研修を実施しました。

冒頭、社長より新任管理者へ期待することとして、①「自立」と「自律」②変革の「眼」と「心」③「大局観」の、3つのメッセージがありました。

また、TOSYSでは2015年5月に長野・新潟両県域で評価者研修を実施し、2会場合わせて約100名の管理者（評価者）が参加、人事評価の適正な運用を行うための研修を開催しました。

当日は、社員との面談を通じた当該年度（期末・期首・中間）の成果の確認、新年度の全社目標・事業部目標・部門目標の設定を受けて、それを各自の目標レベルにブレークダウンすること、その目標を各社員と共有し、目標達成に向けて適切なコミュニケーションを図る方法の重要性について、事例を交えた説明がなされました。また日頃の業務に対する支援・指導の重要性についても再認識を促しました。



評価者研修の様子（TOSYS）

つうけんでは、2014年度と同様に管理者の人材育成を目的に外部講師による管理者研修を1月と2月に実施しました。

「激しく変化する事業環境を意識し、自ら行動し会社を変革する管理者（部門経

営者)を目指すために必要な意識改革および必要スキル付与を行うこと」を目的に行っており、今後も継続して実施していきます。

CSSでも、管理職に対して業績評価研修を実施し、管理者(評価者)が全員参加し、人事評価の適正な運用を行うための研修を受講しました。

班長セミナー開催 日本コムシス

—人づくり—

日本コムシスでは、すべての認定班長に対し、現場第一線の監督者として、指示処分、改善勧告阻止に向けた人身・設備・交通事故を絶対に起こさない意識の育成をはじめ、現場指導力の向上のため、リスクアセスメント、安全施工サイクルなどについての研修を行っています。



班長セミナーの様子

CS向上研修を実施 日本コムシス

—人づくり—

日本コムシスでは、宅内工事におけるお客様満足度(CS)向上を目指し、一般常識的なマナーからお客様対応時のマナーまでを再確認し、一人ひとりの意識を高めるためのCS向上研修を実施しています。

システム基盤構築研修を開催 COMJO

—人づくり—

COMJOでは、システム基盤構築の研修を実施しています。研修では、LinuxベースのWebシステム構築技術、システム基盤の設計手法など、ソフトウェア開発以外の新技術を中心に、実習を交え、より実践に近い最新技術を学ぶことができます。



システム基盤構築研修の様子

プロジェクトマネジメント研修を開催 COMJO

—人づくり—

COMJOでは、プロジェクト管理レベルの向上、不採算プロジェクトの撲滅を目的に、プロジェクトマネジメントスキルを高める研修を行っています。

2015年度は、外部講師を招いて、プロジェクトリーダーを中心に「プロジェクトマネジメント研修」「見積研修」を開催し、合計45名が受講してスキルの向上を図りました。

各種研修の開催 CSS

—人づくり—

CSSでは新規入場者向け受入研修を対象者全員に実施し、情報セキュリティ・個人情報保護・コンプライアンス・リスクマネジメントについて理解を深めているほか、自己開発研修として、外部セミナー機関と契約し、ロジカルシンキングやマナー・メンタルなどの一般研修から、IT系、営業系、管理職・リーダー向け、財務経理系、人事給与系まで、広く学習できる体制を敷いています。

また、評価制度の定着に向けたフォローアップ・理解活動・管理者基礎研修を定期的に実施していることに加え、外部講師をお招きし、人の成長に関わる場面(自己理解研修、キャリア開発、コミュニケーション、リーダーシップ開発など)でのスキル育成研修により、コミュニケーションの理解度を深める研修も実施しています。

今後もさまざまな研修を通じ、グループ内外のお客様に一層信頼いただけるサービス提供、人材育成を目指します。

若手育成のための施策

インストラクター・メンター制度 日本コムシス

—人づくり—

日本コムシスのNTT事業本部アクセスシステム部では、発注元や現場に携わるすべての人たちに信頼され、どのような場面でも設計から竣工までを円滑にマネジメントできる柔軟な人材を育成するため、インストラクター制度による若手社員育成を行っています。

また、ドコモ事業本部では2008年よりメンター制度を実践しており、入社1～3年目を弟・妹、5～6年目を兄・姉、現場代理人以上を長男・長女、担当課長以上を親として役割分担し、社歴の浅い社員の支援活動を行っています。

光開局工事 日本コムシス

—人づくり—

徳島県板野郡板野町にある徳島サテライトでは、東京工事事務所から派遣された直営班の若手社員が、光開局工事の設計～施工・竣工までをメインで行いました。



インストラクターに教わりながら
光接続工事を行う2年目社員

この工事は、地下ケーブル・架空ケーブルの光接続工事を設計～施工・竣工まで、現場代理人と入社2年

目から6年目までの若手社員が寝食をともにしながら、工事完遂を目指す数少ない現場です。そのため、後先をしっかり吟味できる思考力が必要となります。ポイントは「考える力」を養うこと。考える癖を持っていると、今後、経験したことのない場面に臨むときも、なぜこれを行う必要があるのか自ら考え柔軟に対応できるようになります。この「考える力」があれば、どんなトラブルにも、どのような現場に行っても対応できる人間になるのです。

この現場では、設計～竣工まで一連の工程を覚えられることはもちろん、長期間、仲間と寝食をともにしながら工事を行うことに大きなメリットがあ

ります。実際に工事に携わった若手社員は、宿泊先に帰ってから数人で集まり、参考書を片手に翌日行う作業工程を自発的に勉強したり、彼らの発案で、月1回の食事会を開いたりとコミュニケーションが円滑になり、作業中もアイコンタクトで通じるまでになりました。また、着工時に比べ、工事進捗率が大幅に上がるまでに成長しました。

●現場の声

一度にたくさんの若手社員の面倒を見ることになり、最初はとまどいました。2年目社員は基礎研修を終えてこの現場に来ましたが、現場に出なければ分からないことがたくさんあります。最初は何をしたら良いのか分からないようでしたが、図面を見て何をするのか、何が必要か、危険ポイントは何かを自分で検討、確認できるまでに成長し、うれしく思います。



日本コムシス
NTT事業本部 アクセスシステム部
現場代理人
水元 伸一

技術・知識の向上に向けた取り組み

技能競技大会を通じた作業スキルの向上 コムシスグループ

—人づくり—

コムシスグループ各社では、さまざまな技能競技大会を通じて人材の育成と品質の向上に努めています。

各競技大会は、技能者の施工技術や技能レベルを競い合うだけでなく、情報通信工事技術の向上や日々進化する材料・工法を全社へ浸透・展開させることを目的に実施しています。

各エリアの技術者を競わせ切磋琢磨させることにより、技術者のモチベーションを高め、グループ全体の技術力強化と向上および技術交流を図っています。

第10回技能コンテストにて最優秀賞を受賞 日本コムシス

-人づくり-

2015年11月25日、栃木県宇都宮市のマロニエプラザ（栃木県立宇都宮産業展示館）にて行われたNTT東日本 栃木支店様主催の「第10回技能コンテスト」において、日本コムシス栃木支店は5種目に参加し、「アクセス系写真検査品質チェック」部門において最優秀賞を受賞しました。



技能コンテストの様子

情報通信エンジニア優良団体表彰 TOSYS

-人づくり-

2015年11月18日、TOSYSは、「情報通信エンジニア資格の取得に積極的に取り組んでいる」として、一般財団法人日本データ通信協会から「平成27年度情報通信エンジニア優良団体」として表彰されました。これで6年連続の表彰となります。



「情報通信エンジニア優良団体」表彰状

現場力向上フォーラム つうけん

-人づくり-

NTT東日本グループ様主催の「第9回現場力向上フォーラム」が、2016年1月20～21日、NTT中央研修センタにおいて開催され、NGN系サービス・設備回復に出場したつうけんの小倉選手が、見事優勝に輝きました。



優勝した小倉選手

プログラミング技術競技会開催を通じたスキル向上

COMJO

-人づくり-

COMJOでは、同業他社とのプログラミング技術競技会（TRIANGLE CUP）を毎年開催しています。開催にあたり、若手社員を対象とした社内予選会を実施して、出場選手を選抜するとともに、社員のプログラミング技術の向上に努めています。



予選会の様子

電設系体感教育施設の立ち上げ サンコム

-人づくり-

サンコムでは、2016年3月、西関東TS（テクノステーション）事務所敷地内に屋外キュービクルや電灯・動力盤・警報盤・弱電盤・自火報受信器などを設置し、躯体工事（コンクリートの床、壁の中の工事）や内装工事で必要な電気設備工事環境を再現し、設備に実際に触ってみることができる体感教育施設を設立しました。テキストを読むだけでなく、「触って、動かして」を実体感することにより、より実践に近い技術研修ができるようになりました。この施設は社内の誰でも活用できるようになっており、電設系技術者の早期育成を着実に進めます。



屋外キュービクル実技体験

優良派遣事業者認定への取り組み CSS

-人づくり-

2015年3月、CSSは、平成26年度厚生労働省委託事業 優良派遣事業者推奨協議会が定める「優良派遣事業者」に認定されました。認定されるには、法令を遵守しているだけでなく、派遣社員のキャリア形成支援やより良い労働環境の確保、派遣先でのトラブル予防など、派遣社員と派遣先の双方に安心できるサービスを提供できているかどうかについて、一定の基準を満たす必要があります。この優良派遣事業者の認定には有効期間があり、3年ごとに更新が必要となります。

今後もさらなるサービス向上に取り組み、お客様やスタッフの皆さまにご満足いただけるサービスの提供をお約束します。

資格取得の推進 コムシスグループ

～人づくり～

コムシスグループ各社では、社員の資格取得に積極的に取り組んでいます。

日本コムシスでは、業務に関わるさまざまな資格取得を推奨しており、資格の種類によっては取得に際して一時金を支給しています。主な資格保有者数は2,835名となっています。

サンコムでは、資格取得に関する規程の見直しを行い、資格取得に関する講習参加費用や受験費用を会社が負担するとともに、資格取得奨励金の対象資格の拡充を図りました。

TOSYSでは、会社が推奨する資格取得については取得費用を負担するとともに取得一時金を支給しており、また、社外研修会や講習会へ積極的に参加することによって、一般財団法人日本データ通信協会から「情報エンジニアリング資格の取得に積極的に取り組んでいる」として表彰されました。

つうけんでは、会社が推奨する資格に対し資格取得奨励金を支給しています。

CSSでは、経理・財務・人事系の資格を中心に、情報処理系、不動産系の資格取得を推奨しています。資格取得費用を会社負担にするとともに、指定した資格については、資格取得奨励金として一時金を支給しています。

各社の主要資格の取得状況は下記のとおりです。

	主要資格	2015年度 新規取得数	累計数
日本コムシス	技術士	1	10
	ITコーディネータ	1	8
	シスコ技術者認定 CCIE	4	89
	LPI OSS-DB Gold	2	4
	Red Hat Linux 認定技術者 RHCA		1
	VMware 社認定 VCI		3
	VMware 社認定 VCAP	1	3

サンコム	電気通信設備工事担任者（AI・DD 総合種）	4	54
	第一種衛生管理者	2	19
	建設業経理士（1 級）	2	23
	第一種電気工事士	7	114
	第二種電気工事士	15	150
	1 級電気工事施工管理技士	8	96
	1 級建築施工管理技士	1	1
	第一級陸上特殊無線技士	26	184
TOSYS	電気通信設備工事担任者（AI 第一種）	1	1
	電気通信設備工事担任者（AI 第三種）	1	2
	電気通信設備工事担任者（DD 第一種）	1	26
	電気通信設備工事担任者（DD 第三種）	1	7
	電気通信設備工事担任者（AI・DD 総合種）	14	82
	第一級陸上特殊無線技士	3	27
	第一種電気工事士	1	33
	第二種電気工事士	5	43
	1 級電気工事施工管理技士	1	20
	1 級土木施工管理技士		18
つうけん	監理技術者（電気）	2	58
	監理技術者（通信）	6	169
	監理技術者（土木）		28
	第一種電気工事士	1	18
	第二種電気工事士	4	47
	電気通信主任技術者（線路）	1	25
	1 級電気工事施工管理技士		25
	1 級土木施工管理技士	1	36
COMJO	第一種衛生管理者	7	26
	PMP（Project Management Professional）	8	86
	情報処理技術者（基本情報技術者）	7	159
	情報処理技術者（応用情報技術者）	3	72
	情報処理技術者（システムアーキテクト）	1	1
	情報処理技術者（データベーススペシャリスト）	3	5
CSS	情報処理技術者（情報セキュリティスペシャリスト）	3	9
	建設業経理士（1 級）		8
	建設業経理士（2 級）	1	31
	日商簿記検定 1 級		2
	日商簿記検定 2 級	1	23
	第一種衛生管理者		14
	第二種衛生管理者		1
	経理・財務スキル検定レベル A	1	1
	経理・財務スキル検定レベル B		1
	宅地建物取引士		6
	マンション管理士		1

■ 従業員とのコミュニケーション

経営層と社員のコミュニケーション

社長対話会の開催 コムシスグループ

—人づくり—

コムシスグループでは、各社のトップと社員とが直接コミュニケーションを図ることができる「対話会」などの交流の場を設けています。それぞれが「垣根」を取り払い、さまざまなことについて気兼ねなく話し合える有意義な機会として、積極的に活用されています。



下期キックオフ大会の様子（COMJO）

日本コムシスでは、社長が全国各地の支店や現場を訪問し、日頃の安全に対する意識、新規ビジネスに対する思いなどについての講話や社員および協力会社社員との対話会を行っています。

つうけんでは社長が全職場を訪問し、社員と直接コミュニケーションをとって意見交換を図っています。

COMJOでは、社長や経営幹部が全社員に事業計画などについて直接説明するとともに、各職場の現状について対話する、キックオフ大会を年2回開催しています。また、社長や経営幹部がお客様訪問のため支店に出張する際も、支店社員を対象に対話会を実施しています。

本部長などとの意見交換会を実施 日本コムシス

—人づくり—

日本コムシスNTT事業本部では、各工事事務所において本部長キャラバンを実施しており、工法の遵守、基本動作の徹底について注意喚起を行っています。

またドコモ事業本部では、年2回、現場代理人と本部社員を交えて現場代理人会議を行っており、本部長より安全に関する注意喚起や各部門長から最新の業務状況について説明しています。



現場代理人会議の様子

ホットラインを開設 日本コムシス TOSYS COMJO

—継続的なBPR—

日本コムシス、COMJOでは、マネジメント層に疑問や意見を直接伝えることができるホットライン「CANライン」を社内ポータルサイトに開設しています。

またTOSYSでは、風通しの良い職場づくりを目指し、2008年から社内に投書箱「わたしの風」を設置しています。寄せられたさまざまな意見については、関係部門で対応策を協議し、改善に努めています。

多様な人材の積極的な活用

女性活躍推進法に向けた取り組み コムシスグループ

—人づくり—

コムシスグループ各社においては、2016年4月1日に施行された「女性活躍推進法」に基づき、それぞれが課題に基づき目標を設定し、取り組み内容と実施時期を定めています。

各社の目標は下記のとおりです。

	目標	計画期間
日本コムシス	・新卒採用者に占める女性比率を20%にする ・管理職に占める女性比率を現在の2倍以上にする	2016年4月1日～ 2019年3月31日
サンコム	・新卒採用の応募者における女性割合を20%以上にし、 採用者に占める女性比率を15%以上にする	
TOSYS	・各種制度の利用に対する社員および職場の理解を醸成 ・育児休職前後の社員に対する支援 ・時間外労働の削減 ・年次休暇取得の推進	
つうけん	・新規採用に占める女性比率を20%以上とする ・女性社員の役付職（課長、課長代理、主任など）比率 を10%以上とする	2016年4月1日～ 2021年3月31日
COMJO	・9～11年目の継続雇用の割合について、男女の差異を 15%以内とする	

次世代育成支援対策推進法に基づく取り組み コムシスグループ

—人づくり—

コムシスグループ各社において「次世代育成支援対策推進法」に基づき、それぞれの行動計画に沿った取り組みを行っています。日本コムシスでは2008年に、サンコムでは2011年に「次世代育成支援対策推進法認定マーク（くるみん）」を取得しました。2015年度は、日本コムシスで18名が育児休業を取得したほか、サンコム4名、TOSYS3名、つうけん1名、COMJO1名、CSS1名が育児休業を取得、また各社において育児休業に伴う短縮勤務を実施しています。

近年、女性の活用・活躍促進は非常に重要な課題となっています。ダイバーシティ・マネジメントの推進に
取り組み、女性の活躍できる企業風土、環境を形成しようとする企業が多くなっている中、TOSYSで働く女性社員たちはどのように思っているのか、2016年1月に「女性が活躍できる環境」についての現状や問題点について座談会を行いました。社員が仕事と子育てを両立させることができるように、社員一人ひとりがワークライフバランスを実現するための働き方を理解するとともに、職場全体での風土づくりを目指します。



座談会の様子

●参加者の声

現在、来年度の新入社員の育成計画を立てており、それ以外には資格の管理にも携わっています。それらをやってきた中で思うことは、新入社員だけではなく会社全体の資格も含めた育成計画を見直し充実したいということです。そして将来的には女性だけではなく、全社員が働きやすい環境づくりや社員がどのように成長していきたいかという意見と会社の思いとをすり合わせながら育成プランを作り上げていきたいと思っています。



TOSYS
NTT事業推進本部
品質工法部
佐藤 貴子

シニアエキスパート制度を導入 コムシスグループ

-人づくり-

コムシスグループでは、定年退職（満60歳）後に勤務する意欲があり、雇用基準要件を満たす人材を継続して雇用する「シニアエキスパート制度」を導入しています。長く勤務したベテラン社員の熟練した技術や知識を若い世代に継承するために重要な制度であると位置づけ、2016年3月末時点では、グループ全体で441名のシニアエキスパートを雇用しています。

また、社員を対象としたライフプラン研修も行っています。これまでの人生と今後の働き方について考え、一個人として充実した豊かな人生を送ることを目的としています。

■ ディーセントな労働条件の提供

ワークライフバランスの推進

エリア職社員制度を導入

日本コムシス

サンコム

COMJO

-人づくり-
CSS

日本コムシス、サンコム、COMJO、CSSでは、地元志向の優秀な人材の確保と定着を目指し、勤務エリアを限定した「エリア職社員制度」を導入しています。個人の価値観やライフスタイルが尊重され、長年住み慣れた地元で専門性を高めていくことができる、新しい働き方が可能となりました。

この制度を利用し、2016年3月末現在、日本コムシスでは98名、サンコムでは49名、COMJOでは36名、CSSでは1名のエリア職社員が在籍しています。

介護休暇の実績 コムシスグループ

-人づくり-

高齢者人口の増加とともに、介護保険制度上の要支援・要介護認定者数は増加しており、介護者となりえる従業員に対する支援は重要な課題となっています。

コムシスグループ各社においては、「育児・介護休業法」に基づき、それぞれの行動計画に沿った取り組みを行っています。

2015年度は、日本コムシスで4名が介護休暇を取得しました。

長時間労働の解消に向けた労使間の取り組み コムシスグループ

-人づくり-

コムシスグループ各社の労働組合は、情報産業労働組合連合会と連携しながら組合活動を行っていますが、春闘・秋闘では経営陣を交え、労使間で忌憚のない意見交換を行うなど、これまで培ってきた信頼関係の維持・発展に努めています。サンコムでは、恒常的な時間外労働の削減に向けて、毎週水曜日と金曜日の2日を定時退社日に定め、社内放送にて促しています。また、「時間外勤務命令管理簿」の活用により、労使間の勤務管理を徹底しています。このほか、有給休暇取得推進のため、年間を通じての「ブリッジホリデー」（法定休日の間を年次有給休暇でつないで連休とするもの）を推奨しています。

TOSYSでは、長時間労働と恒常的な時間外労働を削減するために、労使間で定時退社日（毎週水曜日および毎月の「安全誓いの日」）、年次有給休暇取得推進期間などの各種施策を通じて、従業員のリフレッシュを図っているほか、長時間労働者への産業医による面談・指導などを行っています。

つうけんでは、労使間で密接な話し合いを行いながら、毎週水曜日を「ノー残業デー」に設定しているほか、長時間労働者への医師による面談・指導を法令で定める以上に充実させるなど、時間外労働の削減に積極的に取り組んでいます。

COMJOでは、長時間労働による健康障害防止のため、深夜勤務・休日勤務の勤務管理者からの事前確認を徹底するなど、きめ細かな対応をすることにより、年間所定外労働時間の削減に努めています。

公正な人事評価・給与体系

成績に対するフェアな評価の実践 コムシスグループ

-人づくり-

コムシスグループでは、組織的な社員の育成を行う一方で、社員の業績をフェアに評価するための取り組みを積極的に行っています。各社で導入している目標管理制度では、上司と部下が面談する機会を設け、事業目標を共有した上で、各個人が実現可能なより高い目標を設定しています。評価については、個人の成果を数値化することにより公平性と透明性を確保し、組織単位での業績貢献度も加味するなど、多角的視点を取り入れています。業績と職務能力を公平かつ的確に評価できる制度とすることにより、社員のモチベーション向上に努めています。

事業を通じた社会貢献

事業を通じた社会貢献、コミュニティへの積極的な参画を図る

災害時の通信インフラ復旧や災害防止、コミュニティへの積極的な参画を行います。

基本的な考え方

経営理念に掲げる「豊かな生活を支える社会基盤づくり」を踏まえ、災害発生により破壊された通信インフラの復旧や、災害防止にかかわる事業を推進するほか、コミュニティへの積極的な参画を通じて、国と地域への貢献に努めています。

■ 災害に対する取り組み

災害復旧

災害復旧支援 日本コムシス

— 安心・安全な業務体制 —

● 沖縄・九州エリア台風の災害復旧支援

2015年5月～9月に発生した台風6号～21号の接近および上陸により、沖縄・九州エリアの電気通信設備は大きな被害を受けました。日本コムシスではこの自然災害に対し、NTT西日本様・NTTドコモ様および協力会社と連携・調整を図り、昼夜を問わず復旧作業に尽力し、電気通信サービスの確保と被災設備の早期復旧を安全に配慮しながら迅速な対応で行いました。この貢献を評価され、NTT西日本様・NTTドコモ様より感謝状をいただきました。



台風により倒れた電柱

● 現場の声

台風通過後は県内外からの支援体制のもと、通信設備の早期復旧に向け、NTT西日本様・NTTドコモ様・協力会社と連携・調整を図りながら、被害が大きく復旧に時間がかかると判断されたエリアには人を多く配置するなど、現場状況を正確に把握しながら全員が一つになり通信設備の早期復旧に取り組みました。



日本コムシス
NTT事業本部
九州事業部門 担当課長
八重 拓治

●鬼怒川決壊の災害復旧支援

2015年9月に発生した台風18号に伴う「平成27年9月関東・東北豪雨」の記録的大雨による鬼怒川堤防決壊被害においても、日本コムシスでは緊急支援要請を受け、浸水しすべての通信電源供給断となった通信電源の復旧、断線した中継ケーブルの復旧、携帯電話基地局故障には仮復旧作業や衛星エントランス搭載移動基地局車の配置補助など、昼夜を問わず復旧作業に尽力し通信設備の早期復旧に大きく貢献しました。その功績を評価されNTT東日本様・NTTドコモ様より感謝状をいただきました。



鬼怒川上流基地局被災状況

●現場の声

災害発生時、社員や協力会社社員も同じ被災者であるにもかかわらず、さらに酷い被害を受けた地域の方のために、昼夜を問わず復旧作業を行い、サービスの早期復旧に努めたことにコムシスグループの底力を強く感じました。



日本コムシス
ドコモ事業本部
モバイルエンジニアリング部
工事推進部門 技術長
横大路 朋宏

災害時に備え防災演習を実施 つうけん

—安心・安全な業務体制—

つうけんでは、2015年5月28日、NTTグループ各社および自治体と共同で大規模激甚災害に備えた実践的な演習に参加しました。

訓練では、北海道後志地区での「局地的ゲリラ豪雨」に伴う土砂災害を想定し、具体的には古平町全域通信孤立、小樽市街地小型交換機被災および銭函エリア通信孤立に対する防災演習が実施されました。

こうした演習訓練を通じ、甚大な災害への通信設備の早期復旧に向けた対応に備えています。

被災地復興

コムシスJV石巻復興事務所を設置 日本コムシス TOSYS つうけん —継続的なBPR—

コムシスグループでは、宮城県東松島市に宮城県エリアの復興工事の基盤となる「コムシスJV石巻復興事務所」を設置しています。

この事務所を拠点に、コムシスグループ一丸となって復興工事を進めています。



石巻復興事務所外観

災害防止

火山火口遠望監視システム構築工事 日本コムシス

—安心・安全な業務体制—

2014年9月に発生した御嶽山の水蒸気噴火を機に、気象庁は全国の活火山の観測体制強化を行っており、日本コムシスでは全国32カ所の火山火口を観測する監視カメラを設置しています。

標高約3,000mでの作業には、有毒ガスの発生に備えガス検知器を常備し、全作業員がガスマスクを携帯しながら、各自で飲料水2L程度・食糧・PC・無線LAN・着替えなどを背負って登り、そのほか人力で運べない機材はヘリコプターで運搬します。「もし作業途中で噴火してしまったらどうするか」「山頂の天候は変わることがないか」など、街での工事以上にポイントポイントでチェックを重ね、十分に安全を確保して登っていく必要があります。

山頂では、ネジ1本紛失しないよう慎重かつ安全と品質を守りながら火口監視カメラとその電力供給源となる太陽光発電設備を設置するための掘削をし、基礎となる土台を組み立てます。

日本コムシスは、今後も安全と品質を守りながら生命と財産を守るための社会づくりに貢献していきます。



山頂での作業の様子



機材はヘリコプターで運搬

社会インフラへの貢献

多様なインフラ建設

東豊線案内表示設備工事 日本コムシス

—安心・安全な業務体制—

日本コムシスでは、北海道札幌市内を走る市営地下鉄「東豊線」の始点から終点までの全14駅構内の案内表示設置更新工事を行いました。

地下鉄での工事は営業終了後の午前0時30分から始発列車が出る早朝までの約4時間と限られた時間の中で品質と安全を厳守することが求められます。



東豊線案内表示設備工事の様子

撤去する旧型の案内表示はおよそ100kg、新型も小型化されコンパクトになっても50kgあります。地下のため、トラックを横付けして大型の機材を運ぶことは不可能なため、エレベーターに入るサイズのハンドリフターを利用し作業時間を大幅に削減し、安全かつ効率良く作業を進めました。

本工事により、旧型の運行案内は「前の駅を発車しました」が流れるだけでしたが、新型の運行案内は表示される情報量が2～3倍になり、先発・次発の発車時刻が表示されるようになりました。また、LED発光により文字カラーも8色となり英語も表示されます。

市民の方からは「見やすくなった、列車到着時刻が分かって便利」という声が寄せられています。

●現場の声

今回の工事は短時間で作業を行うため判断力を求められました。過去の経験や日頃から色々なことに興味を持っておくことが大切で、その積み重ねが判断力を磨くのだと実感しました。



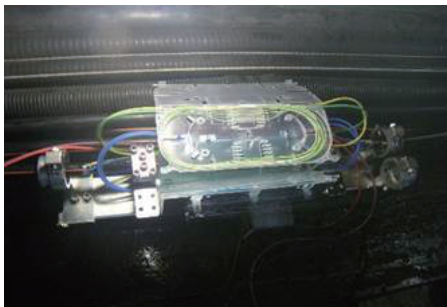
日本コムシス
ITビジネス事業本部
北海道事業部門 現場代理人
藤田 智

北海道新幹線の開業に貢献 つうけん

ー継続的なBPRー

つうけんは、北海道新幹線の開業時に、新幹線の安全対策の一つである「限界支障報知装置」に利用する光ケーブルの接続工事・性能試験を行いました。

「限界支障報知装置」とは、線路上に障害物があることを知らせる装置で、隣接する線路での脱線事故や線路内に自動車が侵入した場合などの情報を瞬時に検知し、新幹線に知らせて緊急停止させる重要な保安装置です。装置の信頼を裏付ける光ケーブルの接続工事・性能試験を行うことができたのは大きな意味を持ちます。今後もコムシスグループの技術力を、さまざまな分野に役立てていきます。



限界支障報知装置



青函トンネルでの接続工事

■ コミュニティへの積極的な参画

教育・文化での貢献

インターンシップを実施 日本コムシス サンコム TOSYS つうけん

ー人づくりー

日本コムシスでは2016年2月に、通信建設業界の認知度向上のため「日本コムシス1Dayインターンシップ」を開催しました。アクセスとモバイルの2コースを実施し、総勢57名の学生が参加しました。

サンコムでは2016年2月に「1Dayインターンシップ」を実施しました。無線についての講話や電波測定体験、アンテナ調整や設備見学といったモバイルエンジニア体験と、LANケーブル作成や光ファイバー心線接続とバケット車の体験といったアクセス&ネットワークエンジニア体験の2コースを実施し、合計で20名の学生が参加しました。参加者からは「実技や先輩エンジニアとの対話を通してより一層理解が深まった」などの感想が寄せられました。

TOSYSでは2015年8月5～7日までの3日間、長野県内の高校から4名の生徒を受け入れ、企業実習を実施しました。企業概要と電話がつながる仕組みについての説明のほか、現場見学、メタルケーブルと光ケーブルの接続演習を行いました。つうけんでは、インターンシップを10年継続して実施しています。2015年度も8月に北海道内外の大学から7名、2月には道外の大学から2名の学生を受け入れ、事業概要説明のほか、光ケーブルの接続演習などを実際に体験してもらい、より実態に即した研修を実施することができました。

これらのインターンシップを経て、2010年度から2015年度にかけて毎年1～2名の社員が入社しています。



モバイルエンジの説明 (サンコム)



メタルケーブル接続実習 (TOSYS)

子ども向けパンフレット「サンコムのごと」作成 サンコム 一人づくりー

サンコムでは、「お父さん、お母さんがどんな仕事をしているんだろう」をテーマに、写真や絵をふんだんに使用した小学校低学年向けの冊子「サンコムのごと」を作成しています。



「サンコムのごと」

親子パトロール 日本コムシス 一人づくりー

日本コムシスでは、2015年8月11日にドコモ事業本部神奈川ITS（テクノステーション）にて、「親子パトロール」を実施しました。参加した子どもたち4名は、暑い中元気いっぱい、初めて近くで見る大きな鉄塔にびっくりしながら、コムシスの仕事や携帯基地局設備について一生懸命ノートをとっていました。安全帯体験やキーロック体験も行い、お父さんのお仕事を体験しました。

また、同年8月20日、青山事業所においても親子パトロールを開催し、8家族19名が参加しました。当日は小雨模様でしたが、午前中は品川港南ビルで、高所作業車搭乗体験・屋上見学・資材倉庫見学・光通信の仕組み・光ファイバー多点通話装置を使って通話を体験し、午後からは現場パトロールを行いました。



神奈川ITS設備見学の様子



参加した青山事業所の親子の皆さん

従業員の子どもの対象にランドセルを贈呈 日本コムシス サンコム COMJO 一人づくりー

日本コムシスでは福利厚生の一環として小学校に入学する従業員の子どもの対象にランドセルを贈呈し、次世代を担う子どもの健やかな成長を支援しています。この取り組みは30年以上前から継続して行っており、2015年度も98名の新1年生に社長のメッセージを添えてランドセルをプレゼントしました。



ランドセルを贈呈

サンコムとCOMJOでも同様の取り組みを行っています。2015年度はサンコムでは27名、COMJOでは9名の新1年生にランドセルをプレゼントしました。

地元小学校に図書購入費用を寄付 日本コムシス 一人づくりー

日本コムシスグループのコムシスエンジニアリングでは、2006年より地元への貢献施策として、特に杉並区立杉並第三小学校の児童教育推進に役立てていただきたく、毎年、図書の贈呈または購入費用の寄付を行っています。

2015年度も同様に、2015年5月18日同校を訪問し、図書購入費用として10万円を贈呈しました。



杉並第三小学校へ図書購入費用贈呈

同校の校長先生からは、「毎週1回、保護者による図書の朗読の時間があり、それらの図書の購入などに役立てています。ありがとうございます」との感謝の言葉をいただいています。

さまざまな活動を通じた貢献

地域の子どもの安全に関する取り組み 日本コムシス サンコム TOSYS 一人づくり

日本コムシスでは、一般社団法人情報通信エンジニアリング協会で取り組んでいる「こども110番活動」をサポートしています。工事用車両に「車こども110番」のステッカーを貼ることで、工事エリアでの地域の防犯に協力しています。

サンコム四国支店では、2013年より地域の青少年健全育成を目的に、古高松地区において小中学生の通学の安全を確保するため地域住民や地元企業と協力をして子どもSOSの活動を行っており、毎年小学生からお礼のお手紙をいただいています。



サンコム 古高松南小学校からの感謝状



サンコム 四国支店SOS看板設置状況

また、TOSYSでも、社会貢献活動への参加意識を高めることを目的とし、工事用車両に子どもが見やすい位置にステッカーを貼り、走行中および工事中に駐車している車両に子どもが助けを求めてきた場合は、保護者や学校、警察などに連絡するといった取り組みを実施しています。

水道管をタイムカプセルに 日本コムシス

一人づくり

日本コムシスの社会基盤事業本部では、2015年8月の夏休み最終日に、水道本管耐震化工事を担当する近隣の小学校で、東京都水道局と共催でイベントを開催しました。

この小学校は閉校が予定されており、「子どもたちのために何かできないか」と考えた田代監理技術者と中山現場代理人が、水道管へ児童たちに絵を描いてもらい、タイムカプセル代わりに埋める企画を立案しました。

当日、子どもたちは、初めて見る水道管に目を輝かせながら自分たちの顔や水の中の生き物などを描き、ペイント後は、東京水道水と市販水の飲み比べやデジタルサイネージによる水道事業・工事の紹介、油圧ショベル試乗体験、測量体験、記念撮影を行いました。

イベントの最後には、児童代表から「小学校での思い出を、土の中と、僕の心の中にしまっておきます」というお礼の言葉をいただきました。

また、このイベントは東京都水道局の平成27年度水道工事イメージアップコンクールにて「特別賞」を受賞しました。



水道管にペイントする児童たち



水道工事イメージアップコンクールにて「特別賞」を受賞



日本コムシス
社会基盤事業本部
電気通信システム部
監理技術者
田代 量裕



日本コムシス
社会基盤事業本部
基盤システム部
現場代理人
中山 晶裕

ペットボトルキャップ回収 コムシスグループ

—人づくり—

コムシスグループ各社では、ペットボトルのキャップ売却益をワクチン購入費に充てるNPO法人エコキャップ推進協会の活動に賛同し、キャップの回収を行っています。CSSが中心となり、2015年度は合計67.3kgを回収しました。

ブックオフ活動 日本コムシス

—人づくり—

日本コムシスでは、不要になった本を集めてブックオフコーポレーション株式会社に売却して寄付する「ブックオフ」活動を、2010年度から半期に一度実施しています。

2015年度にも継続して実施し、本やDVDなどの売却額28,972円を、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンに寄付しました。

2013年度	2014年度	2015年度
10,405円	7,725円	28,972円



集められた本やDVD



ピースウィンズ・ジャパンからのお礼状

国境なき医師団への支援 CSS

—人づくり—

CSSでは、社会貢献型自動販売機を利用することにより、自動販売機業者を経由して「国境なき医師団」への寄付をしています。2015年4月～2016年3月までの寄付金額は、372,216円でした。

この金額は、はしかの予防接種なら約14,800人、難民キャンプで必要な清潔な飲料水約15,600人分に相当します。自動販売機の設置をお願いしているお客様へは「設置費用」、ドリンクを飲んでいる皆さんには「低価格でのご提供」、そして、意識することなく自動的に「国際貢献」が実現できるWin-Win-Winが成立しています。



飲料購入を通じて金額の一部が寄付される自動販売機



「国境なき医師団」からの感謝状

全国各地で清掃・美化活動 コムシスグループ

—人づくり—

コムシスグループでは、全国各地において清掃・美化活動に力を入れています。地域の自治体・自治会などが主催する清掃活動に積極的に参加しているほか、事業所周辺での自主的な清掃活動なども定期的に行っています。

日本コムシスでは、2015年6月7日、志賀島環境クリーン作戦に九州支店から18名が参加し、海水浴シーズン前の志賀島海水浴場の清掃活動を行いました。

サンコムでは、2007年秋に本社を目黒区青葉台から杉並区高円寺へ移転して以来8年以上、毎週第1および第3水曜日に、本社前清掃を実施しています。また、東海支店においては2015年7月より毎月24日を清掃ボランティアの日と定め、

支店周りと支店から最寄駅までのルートの清掃活動を始めました。地域の皆さまからも褒めのお言葉をいただき、より一層の地域社会への貢献を目指しています。

TOSYSでは、2015年5月24日、10月25日の鳥屋野潟一斉清掃（新潟）に社員と家族ら約100名が参加し、ごみ回収活動を行いました。TOSYSグループは1998年から毎年春と秋の年2回継続して参加しています。地域の豊かな自然環境を守るため、小さな輪から大きな輪に広がるよう環境意識を深め、今後も積極的に参加し、地域社会に貢献していきます。

つうけんでは、積極的に社会貢献活動に取り組むとともに、地球環境にやさしい事業活動を通して、地域社会へ貢献することを目指しています。

2015年度は、札幌市の白石区役所と「まちづくりパートナー協定」を締結している「白石区ふるさと会」が主催する地域環境美化活動に参加し、白石区で事業を運営する企業による「白石こころード（旧白石サイクリングロード）における環境美化活動」において、つうけんは5月と10月の2回、南郷通19丁目から20丁目までのサイクリングロードの清掃を担当し、本社から計16名が参加しました。



日本コムシス「志賀島環境クリーン作戦」清掃活動



サンコム 東海支店清掃活動



TOSYS 鳥屋野潟一斉清掃



つうけん「白石区ふるさと会」が主催する地域環境美化活動

■ 地域社会との交流

地域交流イベントを開催

ドリームフェスタ2015の開催

TOSYS

一人づくり

TOSYSでは、2015年11月3日、長野市真島総合スポーツアリーナ「ホワイトリング」において、通算23回目を迎えた「TOSYSグループ ドリームフェスタ」を開催しました。

当日は、社員が提供したチャリティーグッズの販売、各事業所の地域特産品販売による楽市、子ども広場など、地域の皆さまとの交流を図るイベントと、TOSYSグループ、日本コムシス、COMJO、炭平コンピューターシステムの社員によるスポーツ大会を開催し、グループ内の交流を図り、親睦を深めました。

本フェスタには約1,000名の地域の皆さま、社員と家族が訪れ、大盛況の中で幕を閉じました。

また、チャリティーバザーや楽市での収益金は、長野県上田市の福祉事業に役立ててほしいと、会社のマッチングギフトと合わせて40万円を、上田市福祉課へ寄付しました。



バザーの様子



上田市福祉課への寄付

地域イベントへの参加

地域の祭事への参加 日本コムシス サンコム TOSYS つうけん -人づくり-

日本コムシスの北海道支店では、きれいな公園を多くの方に見に来ていただくと、「ミニ大通 お散歩まつり」を周辺企業と共催しています。2015年度も無農薬野菜の販売を行い、たくさんの地域住民の皆さまにお越しいただき、大変ご好評をいただきました。支店一同交流を深めながら、大変充実したひとときを過ごすことができました。

サンコムでは、2015年8月29～30日の2日間、恒例となっている「第59回東京高円寺阿波おどり」に、「コムシスグループ連」として参加しました。今回で8年連続の参加となります。初日はサンコム社員の子どもを含む総勢76名の参加者が日々の練習の成果を発揮し、一体感のある踊りを披露することができました。また、2日目は、大会運営のボランティアに参加し、雨天の中、24名が会場の清掃活動を行いました。開催中に出る大量のごみは分別して換金すること



支店入り口で野菜を販売する様子



第59回東京高円寺阿波おどり



長野びんずる



旭川夏まつり「大雪連合神輿」

により、インドの教育支援に充てられています。

TOSYSグループでは、毎年、長野市と新潟市で8月に開催される「長野びんずる」「新潟まつり大民謡流し」の2大祭りに多くの社員が参加し、社員や地域住民の皆さまと交流を深めています。揃いの法被や浴衣に身を包み、約100名の社員が息の合った元気な踊りを披露することができました。

つうけんでは、毎年8月に行われる「旭川夏まつり」に、地域貢献とつうけんグループの親睦を図ることを目的として、各事業所、グループ会社、OBなどの協力を得て、「大雪連合神輿」に参加しています。また、小樽事業所は「おたる潮まつり」(7月)、釧路事業所は「くしろ港まつり」(8月)、函館事業所は「函館港まつり」(8月)など、各事業所において地元の祭りに参加しています。

第六回高円寺演芸まつりへの参画 サンコム -人づくり-

サンコムでは毎年2月に行われている「高円寺演芸まつり」に協賛し、本社地下大会議室にて「サンコム寄席」と銘打って、落語家をお呼びし、2年連続演芸大会を開催しました。

地域住民の方々や社員で会場は満員となり、大盛況のうちに幕を閉じました。地元住民の方々にサンコムを知っていただく良い機会となりました。



第六回高円寺演芸まつり



サンコム寄席 会場の様子

外部表彰

表彰関連 コムシスグループ

—継続的なBPR—

コムシスグループ各社では、事業活動を通じたお客様からの表彰や、社会貢献に関わる表彰など、2015年度も多数の表彰を受けました。

●NTTインフラネット様より感謝状

日本コムシス

飯島道東地区電線共同溝工事に於いて、「無事故・無災害並びに遅延なく工事を完遂された功績」について感謝状をいただきました。



●沖縄セルラー電話様より感謝状

サンコム

伊江村ユビキタスネット構築工事について、感謝状をいただきました。



●東京電力パワーグリッド様より感謝状

サンコム

平成27年度スマートメーター用通信設備構築工事に対する貢献について、感謝状をいただきました。



●ソフトバンク様より表彰状

つうけん

経年の無事故に対し、表彰状をいただきました。



●首都高速道路様より表彰状

日本コムシス

神奈川地区の非常電話機の改修等工事に於いて、「無事故で良好な品質」が評価され、表彰状をいただきました。



●華為技術日本様より「GOLD AWARD」を受賞

サンコム

パートナー交流会にて、1年間の功績を認められ、3年連続で最高の賞である「GOLD AWARD」を受賞いたしました。



●「信越総合通信局長表彰『情報通信月間』」を受賞

TOSYS

信越総合通信局より、長年にわたる情報通信の発展に対する貢献について、表彰されました。



●「北海道社会貢献賞」を受賞

つうけん

北海道知事より、地方自治の進展、社会福祉の増進などへの貢献に対して、表彰されました。



●東京都より表彰状

日本コムシス

城山トンネルの非常用他設備工事に於いて、優良な成績で完成させたことに対し、表彰されました。



●NEC様より感謝状

サンコム

「5次PNET構築工事」において、長年にわたるビッグプロジェクトに対する功績が高く評価され、感謝状をいただきました。



●国土交通省北陸地方整備局より感謝状

TOSYS

関東・東北豪雨の水害対応における宮城県大崎市の排水作業への貢献に対し、感謝状をいただきました。



●NECソリューションイノベータ様より感謝状

COMJO

事業発展に対する多大なる貢献に対し、感謝状をいただきました。



コムシスグループCSRのあゆみ

●コムシスホールディングス ●日本コムシス ●サンコム ●TOSYS ●つうけん ●COMJO ●CSS

1940年代	
1947年	●三和電気興業株式会社設立
1950年代	
1951年	●日本通信建設株式会社設立 ●大北電建株式会社設立
1954年	●北海道電話工事株式会社・北海道通信工事株式会社と合併
1960年代	
1960年	●新潟電話工業株式会社設立
1961年	●共栄工業株式会社と合併、北日本通信建設株式会社に社名変更
1967年	●ソフトウェア要員の養成開始
1968年	●大栄通信工業株式会社と合併、三和大栄電気興業株式会社に社名変更
1970年代	
1979年	●情報エンジニアリング部を新設。ソフトウェア開発事業を本格的に開始
1990年代	
1990年	●日本コムシス株式会社に社名変更
1992年	●株式会社つうけんに社名変更
1996年	●株式会社三和エレクトリックに社名変更
1997年	●ISO9001を組織別に認証取得 ●信越通信建設株式会社と合併、東日本システム建設株式会社に社名変更
1998年	●ISO9001を本社および全支店で認証取得 ●テクノ電設株式会社と合併 ●ISO9001認証取得
1999年	●コムシス大宮ビルに太陽光発電システムを導入 ●ISO9001を関連会社へ拡大 ●ISO9001認証取得／ISO14001認証取得
2000年代	
2000年	●「コンプライアンス規程」を制定
2001年	●ISO14001を全社で認証取得／ISO9001を全社・全組織に統合
2002年	●「コンプライアンス・マニュアル」を作成 ●ISO9001登録変更／OHSAS18001認証取得 ●OHSAS18001認証取得
2003年	●日本コムシス・三和エレクトリック・TOSYSの3社共同の株式移転により、 純粋持株会社としてコムシスホールディングス株式会社設立 ●ISMS組織別認証取得 ●ISO14001認証取得
2003年	●日本コムシスの共通業務をアウトソーシングし、 コムシスシェアードサービス株式会社を設立
2004年	●ISMSを全社・全組織に拡大 ●プライバシーマーク認証取得 ●ISO14001認証取得

2005年	●企業理念、行動指針を新たに制定 ●サンワコムシスエンジニアリング株式会社に社名変更 ●JIS Q 27001認証取得
2006年	●COHSMSを全社認証取得 ●厚別ビルに太陽光発電システムを導入 ●プライバシーマーク認証取得
2007年	●総務部CSR推進室を発足 ●情報セキュリティ向上のため、ISO/IEC27001へ移行
2008年	●コムシス高円寺ビルに太陽光発電システムを導入 ●プライバシーマーク認証取得 ●総務人事部広報・CSR推進室を発足 ●次世代認定マーク（愛称：くるみん）取得
2009年	●日本コムシスより情報事業を分社化し、コムシス情報システム株式会社設立 ●総務部CSR推進室を発足 ●総務部広報・CSR推進室に組織変更 ●総務企画部CSR推進室を発足
2010年代	
2010年	●コムシス北海道ビルに太陽光発電システムを導入 ●本社ビルに太陽光発電システムを導入 ●総務人事部CSR推進室を発足 ●ISO/IEC27001認証取得 ●株式会社つうけんと株式交換により経営統合
2011年	●次世代認定マーク（愛称：くるみん）取得
2012年	●日本コムシスグループ再編
2013年	●常陸太田太陽光発電所、昭和太陽光発電所、津太陽光発電所稼働 ●衛生推進室設置
2014年	●世田谷テクノステーションに太陽光発電システムを導入 ●業務推進部を発足 ●株式会社日本エコシステムの株式を取得 ●川中島建設株式会社を完全子会社化とする経営統合 ●北茨城太陽光発電所稼働
2015年	●加東市屋度太陽光発電所、つくば太陽光発電所、伊賀市三田太陽光発電所、 土浦市太陽光発電所、加東市屋度大池太陽光発電所、安曇野市穂高太陽光発電所を 稼働 ●優良派遣事業者認定を取得 ●北海道電電輸送株式会社を完全子会社化とする経営統合の実施 ●東亜建材工業株式会社を完全子会社化とする経営統合の実施 ●世田谷事業所に太陽光発電による電気自動車導入 ●株式会社日本アフター工業を完全子会社化とする経営統合
2016年	●ISO9001全社（3本部限定）に縮小 ●五島市福江島太陽光発電所を稼働 ●東京舗装工業株式会社を完全子会社化とする経営統合



コムシスホールディングス株式会社

CSR推進室

〒141-8647

東京都品川区東五反田2-17-1

TEL 03-3448-7190

FAX 03-3447-3993

URL <http://www.comsys-hd.co.jp/>



環境に配慮した植物油インキを使用しています。



この冊子に使用している用紙の売上の一部は、生物多様性を保全する活動に寄付されています。また、この紙を使用することで国産材の有効活用が推進されます。